

平成30年度呉市教科用図書（小学校）選定委員会

総合所見

平成30年8月17日（金）

呉市教科用図書選定委員会

総合所見

校種	小学校	種目	「国語」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①単元・題材の目標の示し方	○各単元における明確な目標の示し方	
	②学習の手引きの示し方	○三領域（話す・聞く，書く，読む）に係わる具体的な学習方法	
	③伝統と文化に関する内容の記述	○伝統的な言語文化に関する単元数と単元名，取り上げられている古典の作品等	
主体的に学習に取り組む工夫	④興味・関心を高めるための工夫	○身近な話題や社会の出来事を取り上げた単元名，題材，内容	
	⑤課題解決的な学習を実施するための工夫	○課題とそれを解決するために設定された学習方法	
	⑥見通しを立てたり，振り返ったりする学習のための構成上の工夫	○相手や目的，方法等を明確にした構成，ワークシート・表，評価活動	
内容の構成・配列・分量	⑦単元・題材や資料等の配列	○三領域一事項における教材の配分や配列，全体構成のバランスやページ数	
	⑧発展的な学習の扱い方	○発展的な学習の扱い方，表記，教材名，ページ数，種類	
内容の表現・表記	⑨本文記述と適切な関連付けがなされた図表の活用	○文章とグラフや表の関連について考えさせる記述	
	⑩巻末資料の示し方	○三領域一事項の指導内容を踏まえた巻末資料の示し方	
言語活動の充実	⑪知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述する活動の工夫	○「手紙を書く活動」，「報告文を書く活動」，「詩，物語，随筆等を創作する活動」等の単元名とその数	
	⑫学校図書館機能の活用	○学校図書館を利活用し，読書を進めたり，情報を得たりする学習の仕方について示されている記述の例	

※観点ごとに，特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・「読む」は単元の冒頭及び学習の手引きの2カ所、「書く」及び「話す・聞く」は1カ所に目標が示されている。 ・「読む」では、学習の手引きに目標が示され、「言葉の力」で目標についての解説とその目標達成のための手立てが示されている。各領域と単元のつながりや、目標および言葉の力に関わるポイントが示されている。</p> <p>② ・「話す・聞く」では、話し合いの聞き取り用メモやスピーチの発表メモを活用する学習方法が示されている。 ・「書く」では、「文章見本帳」でこれまで書いた文章を整理することが示されている。 ・「読む」では、読んだ本の中からおすすめの本の推薦カードを書く活動が示されている。また、学習の流れに合わせて具体的な学習方法が示され、手順を追って目標を達成することができるように工夫されているが、ノートの記述例はない。</p> <p>③ ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・全学年で3～4の単元が取り上げられている。 ・5年生「新聞記事を読み比べよう」では、2つの新聞記事を読み比べる学習が設定され、生活の中の多様な形式のテキストが取り上げられる等、総合的な学習の時間等と関連させて、課題発見・解決学習につなげることができる単元となっている。</p> <p>⑤ ・「読む」では、「文章の展開を読む」という課題に対し、イラストの子供たちの言葉を基に構成図を完成させる学習が設定されている。 ・「書く」では、「資料を生かして考えたこと書く」という課題に対し、資料を活用する手順や文章の型が示されている。</p> <p>⑥ ・話し合うことにおいて、相手が適切な理由を挙げているかを考えながら聞くために、「練習用例文」「話し合い（聞き取りメモ）」「振り返り」の順で構成されている。 ・聞き取りメモに、相手の発言やそれを基にした自分の立場を明確にして理由を書く欄があり、ねらいに迫るための具体的な手立てとなっている。また、活動を振り返る欄があり、構成上の工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・各領域による配置の偏りは見られない。 ・高学年より低学年の方が「話す・聞く」「書く」領域の題材数が多い。 ・高学年において、呉の子供たちの課題である「読む」領域の題材数が多く、領域を関連付けた単元も設定されている。</p> <p>⑧ ・発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 ・6年生「日本の言の葉 日本の文字に関心を持とう」において、万葉集を例に挙げ、万葉がなについて2ページ示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑨ ・3年生では「てびき」に図や表と文章の関係を捉えさせる記述がある。 ・4年生では、目的に合わせた図や表等の表し方の違いを読み取らせる記述がある。 ・5年生では、図や写真を用いた説明文がある。 ・6年生では、複数の資料を読んで、情報を活用する題材が配置されている。目的を意識させたり、筆者の意図を捉えさせたりする記述がある。 ・3年生と6年生に各2教材あることで、繰り返し学習できるようになっている。</p> <p>⑩ ・「話す・聞く」「書く」では、ノートの作り方等の指導資料を全学年で段階的に示されている。 ・「読む」では、読み物資料が全学年2～4作品示されており、系統的に指導することができる。 ・3年生以上で、他教科への活用について具体的な例を挙げて示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑪ ・話す活動、書く活動が全学年にあり、活動数が多い。話す活動…スピーチ、説明、報告等 書く活動…手紙、体験・生活文、推薦文、記録文、創作文等</p> <p>⑫ ・1年生で学校図書館を紹介し、2～6年生で小単元「図書館へ行こう」が設定されている。 ・「図書館の案内」「本のなかま分け」「三段ラベル」「日本十進分類法」「関連図書」等について記述されている。 ・学校図書館が学習・情報センター及び読書センターとしての役割をもっていることが理解できるものになっている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
学図	<p>1 ① ・「読む」は単元の冒頭及び「てびき」の2カ所、「書く」及び「話す・聞く」は1カ所に目標が示されている。 ・「読む」では、学習の手引きに目標が示され、「国語のカギ」で目標についての解説が示されている。</p> <p>② ・「話す・聞く」では、「児童会への提案」に向け、イメージマップ図とスピーチメモを活用する学習方法が示されている。 ・「書く」では、「随筆作品集」作成のための文例が示されている。 ・「読む」では、重ね読みすることができるよう詩2作品が示されている。読みをまとめる観点と一部ノートの記述例が示されているが、指導のための発問が少なく、読みを深めにくいものがある。</p> <p>③ ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されているが、種類は少ない。</p>
	<p>2 ④ ・全学年で2～3の単元が取り上げられている。 ・5年生「生命のかて・塩」では、身の回りにある食べ物がを取り上げられ、塩のもつ働きを論理的に読む学習が設定されている。</p> <p>⑤ ・「読む」では、「要旨を読み取る」という課題に対し、「読みのレッスン」としてプレ教材が単元の前に設定されている。 ・「書く」では、「すじ道（論理）を確かめる」とい課題に対し、例文を参考にすじ道を立てる学習方法が示されている。</p> <p>⑥ ・話し合うことにおいて、新しい課題を見付けるためにパネルディスカッションが設定されている。 ・「テーマ選び」「分類・整理」「準備」「実践」の順で構成し、学習活動や完成したパネル、発表資料例がイラストで示されている。 ・パネルディスカッションの各担当としての振り返りが示されているが、学習内容に関する振り返りはない。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
	<p>3 ⑦ ・各領域による配置の偏りは見られない。 ・6年生で「書く」領域のページ数が多い。書くための基本的な技能を習得させる目的の部分と活用する部分に分けて設定されている。 ・高学年において、呉の子供たちの課題である「読む」領域の題材数がやや少ない。</p> <p>⑧ ・発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 ・6年生「言葉のきまり 時代による言葉の変化」において、口語と文語や昔の言葉のきまりについて2ページ示されている。</p>
	<p>4 ⑨ ・5年生では、表やグラフを使って相手に分かりやすく書く活動がある。 ・6年生では、図や写真と文章を関連付けた説明文が提示されている。 ・その他の学年では、手引きに文章とグラフや表との関連について考えさせる記述はない。</p> <p>⑩ ・「話す・聞く」「書く」では、「国語のカギ」として指導資料が領域ごとに3～7つ示されている。 ・「読む」では、読み物資料を全学年3～5作品示されている。 ・2年生以上で、図書館の利活用につながる系統性のある指導資料、具体的な「本の楽しみ方」が示されているが、他教科への活用について具体的な記述はない。</p>
	<p>5 ⑪ ・話す活動では、3年生の単元「しょうかいしたいことを話そう」が設定されているが、学習活動はスピーチ原稿を書く活動となっている。また、話す活動が設定されていない学年がある。</p> <p>⑫ ・5年生以外で、学校図書館に関する小単元が設定されている。 ・「学校図書館の紹介」「学校図書館の使い方」「本のなかま分け」「地域の図書館の紹介」等について記述されている。</p>

発行者	総合的な所見
三省堂	<p>1 ① ・単元の冒頭及び教材文の後に目標が示されている。 ・「読む」では、単元の冒頭及び学習の手引きの終わりに、目標についての解説が示されている。</p> <p>② ・「話す・聞く」では、「友達に推薦するスピーチ」に向け、読書カードからスピーチメモを作成する例が示されている。 ・「書く」では、事柄を整理して書くための関係図が示されている。 ・「読む」では、読みをまとめる観点とノートの記事例が一部示されているが、発問につきながりが十分見られないものがある。</p> <p>③ ・低学年では昔話や神話・伝承等，中学年では短歌や俳句，慣用句や故事成語，高学年では古文・漢文等と，継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されているが，種類は少ない。</p>
	<p>2 ④ ・全学年で1～3の単元が取り上げられている。 ・5年生「動物の『言葉』人間の『言葉』」では，児童にとって身近な動植物を取り上げ，動物や世界の子供たちの写真等を関連付けて文章の構成や要旨を捉える学習が設定されている。</p> <p>⑤ ・「読む」の「内容を正確に捉える」という課題に対し，三段階の学習課題が示されている。 ・「書く」の「事柄を集め整理して書く」という課題に対し，事柄の見通しがもてるようなマップや例文等が示されているが，学習の手順として示されていることが具体的でない部分がある。</p> <p>⑥ ・話し合うことにおいて，自分の意見をはっきりさせるためにパネルディスカッションを設定し，「パネルディスカッションの手順」「情報収集」「実践」の順で構成されている。 ・メモ等のワークシートは示されていない。パネルディスカッションの各担当としての振り返りが示されているが，学習内容に関する振り返りはない。</p>
	<p>3 ⑦ ・各領域による配置の偏りは見られない。 ・1教材1領域で示されている。 ・高学年において，呉の子供たちの課題である「読む」領域の題材数が多いが，領域を関連付けた単元は設定されていない。</p> <p>⑧ ・発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 ・6年生「日本語の歴史」において，漢字仮名交じり文や万葉仮名について3ページ示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑨ ・5年生では，「てびき」に図と文章の関連を考えさせる記述や，図や表と内容を関連付けて捉えさせる記述がある。 ・6年生では，グラフや表から読み取れることを関連付けて文章にまとめさせる記述がある。 ・その他の学年では，手引きに文章とグラフとの関連について考えさせる記述はない。</p> <p>⑩ ・「話す・聞く」では，「声を出す」「一対一で話す」「グループ内で話す」「話し合う」という学習活動が発達段階に沿って設定されている。 ・「書く」では，原稿用紙，お願いやお礼の手紙等の指導資料を段階的に示されている。 ・「読む」では，読み物資料が全学年2～5作品示されるとともに，写真で50冊程度の本が紹介されているが，他教科への活用についての記述はない。</p>
	<p>5 ⑪ ・話す活動，書く活動が全学年にあり，活動数はやや少ないが様々な学習活動が設定されている。話す活動…スピーチ，説明，報告等 書く活動…手紙，体験・生活文，推薦文，記録文・報告文，創作文等</p> <p>⑫ ・全学年で小単元「図書館へ行こう」が設定されている。また，2年生以上で学校図書館での調べ学習で「学校図書館の紹介」「目次・索引」「推薦図書」「本の検索」「日本十進分類法」「関連読書」等について記述されている。 ・学校図書館が学習・情報センター及び読書センターとしての役割をもっていることが理解できるものになっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
教出	1 ① ・単元の冒頭の1カ所に目標が示されている。 ・「読む」では、学習の手引きの「ここが大事」で目標についての解説が示されている。 ② ・「話す・聞く」では、「話し合い」「パネルディスカッション」等の話し方のモデルが示されている。 ・「書く」では、リーフレット、意見文等のモデルが示されている。 ・「読む」では、問いに対して考えを整理するための図表例等が示されている。読みをまとめる観点とノートの記述例が一部示されているが、思考させるための発問が少なく、読みを深めるものになっていないものがある。 ③ ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されているが、数は少ない。
	2 ④ ・全学年で2～4の単元が取り上げられている。 ・5年生「『わが町ベスト・スリー』を決めよう」では、教材文を基に聞き手を納得させる伝え方や構成について学び、「町じまん」を選んで推薦する学習が設定されており、身近な話題によって他の教科等に興味・関心をもたせ、学習を広げる上で効果的な単元となっている。 ⑤ ・「読む」では、「表現の工夫や登場人物の性格を捉える」という課題に対し、「図書せいせん会」が単元全体の言語活動として設定されている。 ・「書く」では、「活動報告をまとめる」という課題に対し、文集の構成を目次としてまとめたり、段落構成等を考えさせたりする「学習の進め方」が示されている。 ⑥ ・話し合うことにおいて、意見の違いを大事にするためのパネルディスカッションが設定されている。「ルール確認」「発表例文」「実践」「感想交流」の順で構成し、発表例に加え、各立場としての留意点が示されている。 ・聞き取りメモ等は示されていない。パネルディスカッションのパネリスト、司会者等、各担当としての振り返りが示されているが、学習内容に関する振り返りはない。
	3 ⑦ ・各領域による配置の偏りは見られない。 ・「読む」「書く」を関連させる等、2、3領域を組み合わせた単元が設定されている。 ・高学年において、呉の子供たちの課題である「読む」領域の題材数が多い。 ⑧ ・発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 ・6年生「日本の文字」において、万葉仮名について3ページ示されている。 <div style="text-align: right;">【○】</div>
	4 ⑨ ・4年生では、図や表と文章を関連付けて説明する教材文を提示し、図や表の提示の仕方に着目させる記述がある。 ・5年生では、自分の考えの根拠となるグラフや写真、新聞記事等を見付けさせる記述がある。 ・6年生では、推薦文を書くときのポイントとして、図や表を根拠として活用させる記述がある。 ⑩ ・「話す・聞く」では、特筆すべき記述はない。 ・「書く」では、1、2年生はノートの書き方が示されている。 ・「読む」では、読み物資料として、5年生で古典、6年生で物語、伝記、随筆が全4作品示されている。また、本の紹介として、1年生で12冊、2年生以上で各50冊以上が写真と紹介文で示され、児童の興味・関心を引くものとなっている。他教科への活用は見られない。 <div style="text-align: right;">【○】</div>
	5 ⑪ ・話す活動、書く活動が全学年にあり、活動数が多い。話す活動・・・スピーチ、説明、報告等 書く活動・・・手紙、体験、生活文、推薦文、記録文・報告文、創作文等 ⑫ ・1～4年生で小単元「図書館へ行こう」が設定されているが、5、6年生にはない。 ・「学校図書館の紹介」「図書館で本をさがそう」「本で調べよう」「分類をもとに本を見つけよう（日本十進分類法）」等について記述されている。

発行者	総合的な所見
光村	<p>1 ① ・「読む」は、単元の冒頭及び学習の手引きの2カ所に目標が示されている。 ・「読む」では、単元の冒頭及び学習の手引きに目標が示され、目標についての解説と目標達成に向けた手立ても示されている。</p> <p>② ・「話す・聞く」では、話の意図を考えるために三人一組でのインタビューが示されている。 ・「書く」では、事実と意見を区別するために「活動報告書」を書く活動が示されている。 ・「読む」では、心情や文章構成を整理するための観点と、そのノートの記述例が一部示されている。また、児童が手順を追いながら読みを深めるような学習の流れとなっている。</p> <p>③ ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ④ ・全学年で1～3の単元が取り上げられている。 ・5年生「天気を予想する」では、文章や図表・グラフ・写真から、筆者の考えを自分たちの生活（身の回りの自然との関わり方）と比べながら読む学習が設定されている。</p> <p>⑤ ・「読む」では、「説明の仕方の工夫を見付ける」という課題に対し、文中の問いと答えに着目させ、その工夫についての話し合い活動が設定されている。 ・「書く」では、「1枚の写真から物語を書く」という課題に対し、想像を書き出したり、構成を考えさせたりする「活動の流れ」が示されている。</p> <p>⑥ ・話し合うことにおいて、立場を明確にして主張し合うために学級討論が設定されている。 ・「討論会の流れの確認」「メモの確認1」「準備」「メモの確認2」の順で構成されている。発表前の立場と理由を明記するメモや、実践後の修正を加えたメモが示され、見本となっている。また、活動を振り返る欄があり、構成上の工夫が見られる。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・各領域による配置の偏りは見られない。 ・「読む」では、第1教材での学びを活用し、第2教材で学習するよう構成されている。 ・呉の子供たちの課題である「読む」領域のページ数が多い。</p> <p>⑧ ・発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 ・6年生「言葉 日本で使う文字」において、平仮名と片仮名のそれぞれの起こりについて3ページ示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑨ ・2年生以上で、写真と文章を関連付けた説明文がある。 ・3年生では絵と写真、4年生は図、5年生は図表とグラフを扱い、系統的に資料を提示されている。 ・6年生では、絵と文章を照らし合わせながら本文から絵について書いてあることを読む学習を示し、他の教科に活用する問いが取り上げられている。 ・4年生と5年生に各2教材あることで、繰り返し学習できるようになっている。</p> <p>⑩ ・「話す・聞く」では、特筆すべき記述はない。 ・4年生以上で「書く」ことの活用に向けた指導資料が発達段階に応じて示されている。加えて、6年生では、「分類する」「共通点を見付ける」などの汎用的資質・能力を付けることができるものとなっている。 ・「読む」では、読み物資料が全学年2～5作品示されているが、他教科への活用は見られない。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・話す活動は2～6学年、書く活動は全学年にあり、様々な学習活動が設定されている。話す活動…スピーチ、説明、報告等 書く活動…手紙、体験、生活文、推薦文、記録文・報告文、創作文等</p> <p>⑫ ・全学年で単元「本は友達」が設定されている。 ・「学校図書館の紹介」「本の分類表」「読書のふり返りと紹介」「本のラベル」「本との出会い、心に残る本」等について記述されている。 ・学校図書館が学習・情報センター及び読書センターとしての役割をもっていることが理解できるものになっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③
視点	単元・題材の目標の示し方	学習の手引きの示し方	伝統と文化に関する内容の記述
方法	各単元における明確な目標の示し方	三領域(話す・聞く、書く、読む)に係わる具体的な学習方法	伝統的な言語文化に関する単元数と単元名、取り上げられている古典の作品等
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」は単元の冒頭及び学習の手引きの2カ所、「書く」及び「話す・聞く」は1カ所に目標が示されている。 ・「読む」では、学習の手引きに目標が示され、「言葉の力」で目標についての解説とその目標達成のための手立てが示されている。各領域と単元のつながりや、目標および言葉の力に関わるポイントが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、話合いの聞き取り用メモやスピーチの発表メモを活用する学習方法が示されている。 ・「書く」では、「文章見本帳」でこれまで書いた文章を整理することが示されている。 ・「読む」では、読んだ本の中からおすすめの本の推薦カードを書く活動が示されている。また、学習の流れに合わせて具体的な学習方法が示され、手順を追って目標を達成することができるように工夫されているが、ノートの記事例はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されている。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」は単元の冒頭及び「てびき」の2カ所、「書く」及び「話す・聞く」は1カ所に目標が示されている。 ・「読む」では、学習の手引きに目標が示され、「国語のカギ」で目標についての解説が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、「児童会への提案」に向け、イメージマップ図とスピーチメモを活用する学習方法が示されている。 ・「書く」では、「随筆作品集」作成のための文例が示されている。 ・「読む」では、重ね読みすることができるよう詩2作品が示されている。読みをまとめる観点と一部ノートの記述例が示されているが、指導のための発問が少なく、読みを深めにくいものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されているが、種類は少ない。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の冒頭及び教材文の後に目標が示されている。 ・「読む」では、単元の冒頭及び学習の手引きの終わりに、目標についての解説が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、「友達に推薦するスピーチ」に向け、読書カードからスピーチメモを作成する例が示されている。 ・「書く」では、事柄を整理して書くための関係図が示されている。 ・「読む」では、読みをまとめる観点とノートの記述例が一部示されているが、発問につながりが十分見られないものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されているが、種類は少ない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の冒頭の1カ所に目標が示されている。 ・「読む」では、学習の手引きの「ここが大事」で目標についての解説が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、「話合い」「パネルディスカッション」等の話し方のモデルが示されている。 ・「書く」では、リーフレット、意見文等のモデルが示されている。 ・「読む」では、問いに対して考えを整理するための図表例等が示されている。読みをまとめる観点とノートの記述例が一部示されているが、思考させるための発問が少なく、読みを深めるものになっていないものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されているが、数は少ない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」は、単元の冒頭及び学習の手引きの2カ所に目標が示されている。 ・「読む」では、単元の冒頭及び学習の手引きに目標が示され、目標についての解説と目標達成に向けた手立ても示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、話の意図を考えるために三人一組でのインタビューが示されている。 ・「書く」では、事実と意見を区別するために「活動報告書」を書く活動が示されている。 ・「読む」では、心情や文章構成を整理するための観点と、そのノートの記述例が一部示されている。また、児童が手順を追いながら読みを深めるような学習の流れとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では昔話や神話・伝承等、中学年では短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文等と、継続して多くの一般的な古典作品に親しめるよう配置されている。

◎:特に優れている、○:優れている

**【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫**

	④	⑤	⑥	
視点	興味・関心を高めるための工夫	課題解決的な学習を実施するための工夫	見直しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫	
方法	身近な話題や社会の出来事を取り上げた単元名、題材、内容	課題とそれを解決するために設定された学習方法	相手や目的、方法等を明確にした構成、ワークシート・表、評価活動	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で3～4の単元が取り上げられている。 ・5年生「新聞記事を読み比べよう」では、2つの新聞記事を読み比べる学習が設定され、生活の中の多様な形式のテキストが取り上げられる等、総合的な学習の時間等と関連させて、課題発見・解決学習につなげることができる単元となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」では、「文章の展開を読む」という課題に対し、イラストの子供たちの言葉を基に構成図を完成させる学習が設定されている。 ・「書く」では、「資料を生かして考えたこと書く」という課題に対し、資料を活用する手順や文章の型が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことにおいて、相手が適切な理由を挙げているかを考えながら聞くために、「練習用例文」「話し合い（聞き取りメモ）」「振り返り」の順で構成されている。 ・聞き取りメモに、相手の発言やそれを基にした自分の立場を明確にして理由を書く欄があり、ねらいに迫るための具体的な手立てとなっている。また、活動を振り返る欄があり、構成上の工夫がある。 	◎
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で2～3の単元が取り上げられている。 ・5年生「生命のかた・塩」では、身の回りにある食べ物が取り上げられ、塩の働きを論理的に読む学習が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」では、「要旨を読み取る」という課題に対し、「読みのレッスン」としてプレ教材が単元の前に設定されている。 ・「書く」では、「すじ道（論理）を確かめる」とい課題に対し、例文を参考にすじ道を立てる学習方法が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことにおいて、新しい課題を見付けるためにパネルディスカッションが設定されている。 ・「テーマ選び」「分類・整理」「準備」「実践」の順で構成し、学習活動や完成したパネル、発表資料例がイラストで示されている。 ・パネルディスカッションの各担当としての振り返りが示されているが、学習内容に関する振り返りはない。 	○
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で1～3の単元が取り上げられている。 ・5年生「動物の『言葉』人間の『言葉』」では、児童にとって身近な動植物を取り上げ、動物や世界の子供たちの写真等を関連付けて文章の構成や要旨を捉える学習が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」の「内容を正確に捉える」という課題に対し、三段階の学習課題が示されている。 ・「書く」の「事柄を集め整理して書く」という課題に対し、事柄の見通しをもてるようなマップや例文等が示されているが、学習の手順として示されていることが具体的でない部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことにおいて、自分の意見をはっきりさせるためにパネルディスカッションを設定し、「パネルディスカッションの手順」「情報収集」「実践」の順で構成されている。 ・メモ等のワークシートは示されていない。パネルディスカッションの各担当としての振り返りが示されているが、学習内容に関する振り返りはない。 	
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で2～4の単元が取り上げられている。 ・5年生「『わが町ベスト・スリー』を決めよう」では、教材文を基に聞き手を納得させる伝え方や構成について学び、「町じまん」を選んで推薦する学習が設定されており、身近な話題によって他の教科等に興味・関心をもたせ、学習を広げる上で効果的な単元となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」では、「表現の工夫や登場人物の性格を捉える」という課題に対し、「図書すいせん会」が単元全体の言語活動として設定されている。 ・「書く」では、「活動報告をまとめる」という課題に対し、文集の構成を目次としてまとめたり、段落構成等を考えさせたりする「学習の進め方」が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことにおいて、意見の違いを大事にするためのパネルディスカッションが設定されている。「ルール確認」「発表例文」「実践」「感想交流」の順で構成し、発表例に加え、各立場としての留意点が示されている。 ・聞き取りメモ等は示されていない。パネルディスカッションのパネリスト、司会者等、各担当としての振り返りが示されているが、学習内容に関する振り返りはない。 	
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で1～3の単元が取り上げられている。 ・5年生「天気予想する」では、文章や図表・グラフ・写真から、筆者の考えを自分たちの生活（身の回りの自然との関わり方）と比べながら読む学習が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」では、「説明の仕方の工夫を見付ける」という課題に対し、文中の問いと答えに着目させ、その工夫についての話し合い活動が設定されている。 ・「書く」では、「1枚の写真から物語を書く」という課題に対し、想像を書き出したり、構成を考えさせたりする「活動の流れ」が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことにおいて、立場を明確にして主張し合うために学級討論が設定されている。 ・「討論会の流れの確認」「メモの確認1」「準備」「メモの確認2」の順で構成されている。発表前の立場と理由を明記するメモや、実践後の修正を加えたメモが示され、見本となっている。また、活動を振り返る欄があり、構成上の工夫が見られる。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点3】
内容の構成・配列・分量**

	⑦	⑧	
視点	単元・題材や資料等の配列	発展的な学習の扱い方	
方法	三領域一事項における教材の配分や配列、全体構成のバランスやページ数	発展的な学習の扱い方、表記、教材名、ページ数、種類	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 各領域による配置の偏りは見られない。 高学年より低学年の方が「話す・聞く」「書く」領域の題材数が多い。 高学年において、呉の子供たちの課題である「読む」領域の題材数が多く、領域を関連付けた単元も設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 6年生「日本の言の葉 日本の文字に関心を持とう」において、万葉集を例に挙げ、万葉がなについて2ページ示されている。 	○
学図	<ul style="list-style-type: none"> 各領域による配置の偏りは見られない。 6年生で「書く」領域のページ数が多い。書くための基本的な技能を習得させる目的の部分と活用する部分に分けて設定されている。 高学年において、呉の子供たちの課題である「読む」領域の題材数がやや少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 6年生「言葉のきまり 時代による言葉の変化」において、口語と文語や昔の言葉のきまりについて2ページ示されている。 	
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> 各領域による配置の偏りは見られない。 1教材1領域で示されている。 高学年において、呉の子供たちの課題である「読む」領域の題材数が多いが、領域を関連付けた単元は設定されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 6年生「日本語の歴史」において、漢字仮名交じり文や万葉仮名について3ページ示されている。 	○
教出	<ul style="list-style-type: none"> 各領域による配置の偏りは見られない。 「読む」「書く」を関連させる等、2、3領域を組み合わせた単元が設定されている。 高学年において、呉の子供たちの課題である「読む」領域の題材数が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 6年生「日本の文字」において、万葉仮名について3ページ示されている。 	○
光村	<ul style="list-style-type: none"> 各領域による配置の偏りは見られない。 「読む」では、第1教材での学びを活用し、第2教材で学習するよう構成されている。 呉の子供たちの課題である「読む」領域のページ数が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の教材であることや中学校で学習することの表記はない。 6年生「言葉 日本で使う文字」において、平仮名と片仮名のそれぞれの起こりについて3ページ示されている。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点4】
内容の表現・表記**

	⑨	⑩	
視点	本文記述と適切な関連付けがなされた図表の活用	巻末資料の示し方	
方法	文章とグラフや表の関連について考えさせる記述	三領域一事項の指導内容を踏まえた巻末資料の示し方	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生では「てびき」に図や表と文章の関係を捉えさせる記述がある。 ・4年生では、目的に合わせた図や表等の表し方の違いを読み取らせる記述がある。 ・5年生では、図や写真を用いた説明文がある。 ・6年生では、複数の資料を読んで、情報を活用する題材が配置されている。目的を意識させたり、筆者の意図を捉えさせたりする記述がある。 ・3年生と6年生に各2教材あることで、繰り返し学習できるよになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」「書く」では、ノート作り等指導資料を全学年で段階的に示されている。 ・「読む」では、読み物資料が全学年2～4作品示されており、系統的に指導することができる。 ・3年生以上で、他教科への活用について具体的な例を挙げて示されている。 	◎
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生では、表やグラフを使って相手に分かりやすく書く活動がある。 ・6年生では、図や写真と文章を関連付けた説明文が提示されている。 ・その他の学年では、手引きに文章とグラフや表との関連について考えさせる記述はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」「書く」では、「国語のカギ」として指導資料が領域ごとに3～7つ示されている。 ・「読む」では、読み物資料を全学年3～5作品示されている。 ・2年生以上で、図書館の利活用につながる系統性のある指導資料、具体的な「本の楽しみ方」が示されているが、他教科への活用について具体的な記述はない。 	
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生では、「てびき」に図と文章の関連を考えさせる記述や、図や表と内容を関連付けて捉えさせる記述がある。 ・6年生では、グラフや表から読み取れることを関連付けて文章にまとめさせる記述がある。 ・その他の学年では、手引きに文章とグラフとの関連について考えさせる記述はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、「声を出す」「一対一で話す」「グループ内で話す」「話し合う」という学習活動が発達段階に沿って設定されている。 ・「書く」では、原稿用紙、お願いやお礼の手紙等の指導資料を段階的に示されている。 ・「読む」では、読み物資料が全学年2～5作品示されるとともに、写真で50冊程度の本が紹介されているが、他教科への活用についての記述はない。 	
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生では、図や表と文章を関連付けて説明する教材文を提示し、図や表の提示の仕方に着目させる記述がある。 ・5年生では、自分の考えの根拠となるグラフや写真、新聞記事等を見付けさせる記述がある。 ・6年生では、推薦文を書くときのポイントとして、図や表を根拠として活用させる記述がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、特筆すべき記述はない。 ・「書く」では、1、2年生はノートの書き方が示されている。 ・「読む」では、読み物資料として、5年生で古典、6年生で物語、伝記、随筆が全4作品示されている。また、本の紹介として、1年生で12冊、2年生以上で各50冊以上が写真と紹介文で示され、児童の興味・関心を引くものとなっている。他教科への活用は見られない。 	○
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上で、写真と文章を関連付けた説明文がある。 ・3年生では絵と写真、4年生は図、5年生は図表とグラフを扱い、系統的に資料を提示されている。 ・6年生では、絵と文章を照らし合わせながら本文から絵について書いてあることを読む学習を示し、他の教科に活用する問いが取り上げられている。 ・4年生と5年生に各2教材あることで、繰り返し学習できるよになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」では、特筆すべき記述はない。 ・4年生以上で「書く」ことの活用に向けた指導資料が発達段階に応じて示されている。加えて、6年生では、「分類する」「共通点を見付ける」などの汎用的資質・能力を付けることができるものとなっている。 ・「読む」では、読み物資料が全学年2～5作品示されているが、他教科への活用は見られない。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点5】
言語活動の充実**

	⑪	⑫	
視点	知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述する活動の工夫	学校図書館機能の活用	
方法	「手紙を書く活動」、「報告文を書く活動」、「詩、物語、随筆等を作成する活動」等の単元名とその数	学校図書館を利活用し、読書を進めたり、情報を得たりする学習の仕方について示されている記述の例	
東書	・話す活動、書く活動が全学年にあり、活動数が多い。話す活動…スピーチ、説明、報告等 書く活動…手紙、体験・生活文、推薦文、記録文、創作文等	・1年生で学校図書館を紹介し、2～6年生で小単元「図書館へ行こう」が設定されている。 ・「図書館の案内」「本のなかま分け」「三段ラベル」「日本十進分類法」「関連図書」等について記述されている。 ・学校図書館が学習・情報センター及び読書センターとしての役割をもっていることが理解できるものになっている。	◎
学図	・話す活動では、3年生の単元「しょうかいしたいことを話そう」が設定されているが、学習活動はスピーチ原稿を書く活動となっている。また、話す活動が設定されていない学年がある。	・5年生以外で、学校図書館に関する小単元が設定されている。 ・「学校図書館の紹介」「学校図書館の使い方」「本のなかま分け」「地域の図書館の紹介」等について記述されている。	
三省堂	・話す活動、書く活動が全学年にあり、活動数はやや少ないが様々な学習活動が設定されている。話す活動…スピーチ、説明、報告等 書く活動…手紙、体験・生活文、推薦文、記録文・報告文、創作文等	・全学年で小単元「図書館へ行こう」が設定されている。また、2年生以上で学校図書館での調べ学習で「学校図書館の紹介」「目次・索引」「推薦図書」「本の検索」「日本十進分類法」「関連読書」等について記述されている。 ・学校図書館が学習・情報センター及び読書センターとしての役割をもっていることが理解できるものになっている。	○
教出	・話す活動、書く活動が全学年にあり、活動数が多い。話す活動…スピーチ、説明、報告等 書く活動…手紙、体験、生活文、推薦文、記録文・報告文、創作文等	・1～4年生で小単元「図書館へ行こう」が設定されているが、5、6年生にはない。 ・「学校図書館の紹介」「図書館で本をさがそう」「本で調べよう」「分類をもとに本を見つけよう（日本十進分類法）」等について記述されている。	
光村	・話す活動は2～6学年、書く活動は全学年にあり、様々な学習活動が設定されている。話す活動…スピーチ、説明、報告等 書く活動…手紙、体験、生活文、推薦文、記録文・報告文、創作文等	・全学年で単元「本は友達」が設定されている。 ・「学校図書館の紹介」「本の分類表」「読書のふり返りと紹介」「本のラベル」「本との出会い、心に残る本」等について記述されている。 ・学校図書館が学習・情報センター及び読書センターとしての役割をもっていることが理解できるものになっている。	○

◎:特に優れている, ○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「書写」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①単元・題材の目標の示し方	○各単元・題材における明確な目標の示し方	
	②姿勢、執筆法、用具の扱いの示し方	○正しい姿勢や執筆法、用具の扱い方の写真やイラストでの示し方	
	③伝統と文化に関する内容の記述	○書写の歴史に関する資料等の内容及びページ数、伝統的な言語文化に関する内容及びページ数	
主体的に学習に取り組む工夫	④興味・関心を高めるための工夫	○身の回りで使用されている書体の具体例、用具の種類、書体	
	⑤見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫	○学習の手順の示し方 ○振り返りやまとめの視点の示し方、自己評価欄の有無と記入方法	
	⑥発展的な学習の扱い方	○発展的な学習における資料の表記・配置、単元名、内容の提示	
内容の構成・配列・分量	⑦単元・題材や資料等の配列	○学年総ページ数、毛筆教材数、硬筆教材数、硬筆記入欄のページ数	
内容の表現・表記	⑧本文記述との適切な関連付けがなされた写真・図・イラスト等の活用	○写真・図・イラスト等による筆使いや筆順等のポイントの提示	
言語活動の充実	⑨学習や日常生活に生きる言語活動の工夫	○各教科等の学習や日常生活に生きる多様な表現活動の例	

※観点ごとに、特に優れていると考えられるものに【◎】、優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・「めあて」という表記はない。 ・1, 2年生はページの右上にめあてを示すマークやイラストが使用されている。 ・3年生以上は、ページの右上に「調べよう」という項目が設けられ、「～について調べよう」「～について考えよう」等、技能のめあてが示されている。</p> <p>② ・写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。</p> <p>③ ・書写の歴史に関する資料等のページ数は計5ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、全学年において計10ページある。 ・全学年において、伝統的な言語文化に親しむことができるように多様な種類が掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・身の回りで使用されている書体について、3年生以上で示されている。 ・用具の種類は、1年生、5年生、6年生で示されている。3年生で熊野筆の筆づくりについて取り上げ、書に親しみをもたせるような工夫がされている。 ・書体は4年生、6年生で示されている。</p> <p>⑤ ・1, 2年生は「気をつけることは何か」「書いてみよう」「できたらシールをはろう」の手順で示されている。3年生以上は「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「振り返ろう」の手順で示されている。 ・めあてと一致した2段階の自己評価項目で示されている。1, 2年生は自己評価用のシールを付けるように、3年生以上は○か△を選択するようになっている。 ・学年末の「学習のまとめ」で、めあてを設定する視点が爪見出しに示されているが、具体的なポイントは示されていない。</p> <p>⑥ ・全学年に発展的な学習「生活に広げよう」が設定され、「ノートに書こう」等、次の学年の学習につながるような工夫が見られる。 ・6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり、次の学年の学習に触れるような工夫が見られる。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」「硬筆に広げよう」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 ・教材数に大きなばらつきはない。(毛筆が始まる3年生以上)</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑧ ・1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生はイラストと擬音で、3年生以上は擬音で示されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 ・毛筆の単元は主に見開き2ページで示し、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。また、手本の1ページの中にもポイントが示されている。 ・3年生(毛筆入門期)では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントが分かりやすく示されている。手本の1ページの中にもポイントが示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑨ ・「生活にひろげよう」として全学年示されている。教科の関連が示されている。 ・「生活にひろげよう 手書き文字で伝えよう」では、活動の手順、レイアウト、完成作品例が示されている。活動の手順のポイントを示し、その中で、レイアウトの文字の大きさの具体例や、図表の効果的なかき方、取り入れ方が示され、他の教科や日常生活に生かすことができるよう工夫されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
学図	<p>1 ① ・全学年で、ページの右端に学習すること（めあて）のマークが付けられている。「～に気をつけて書こう。」「～に注意して～を書こう。」等、技能のめあてが具体的な表現で示され、その中のポイントとなる言葉には色付けされている。</p> <p>② ・写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。</p> <p>③ ・書写の歴史に関する資料等のページ数は計5ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、全学年において計8ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容が全学年にあるが、中国の古典等に親しむような教材はない。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・身の回りで使用されている書体について、1年生、5年生で示されている。 ・用具の種類は、2年生、5年生、6年生で示されている。3年生で熊野筆の筆づくりについて取り上げ、書に親しみをもたせるような工夫がされている。 ・書体は4年生で示されている。</p> <p>⑤ ・1, 2年生は、「はじめ」「がくしゅうすること」「れんしゅう」「まとめ」「かけたかな」の手順で示されている。3年生以上は、「めあて」「ためし書き」「自分の課題」「練習」「まとめ書き」「ふり返り」の手順で示されている。 ・めあてと一致した2段階の評価項目で示され、できたら○の中に表情を記入するようになっている。 ・学年末の「学習のまとめ」で、児童がめあてを設定するようになっていない。</p> <p>⑥ ・6年生で発展的な学習「発展」が設定されている。 ・6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。手本が示されているが、実際に書く内容が十分ない。</p>
	<p>3 ⑦ ・配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」「硬筆に広げよう」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 ・教材数に大きなばらつきはない。（毛筆が始まる3年生以上）</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生以上は「止めるしるし」等、記号にして示されている。始筆の穂先の向きが、三角定規のイラストを用いて示されている。 ・毛筆の単元が4ページで示され、ポイントが別のページに示されているので、ポイントを意識させにくい。 ・3年生（毛筆入門期）では、写真、3文の説明、イラストでポイントが示されている。</p>
	<p>5 ⑨ ・「楽しんで書こう」（1, 2年生）、「硬筆に生かそう」（3～6年生）等で全学年示されている。教科の関連が示されている。 ・「資料」として完成作品例、レイアウトが示されている。他の教科や日常生活に生かせる言語活動の例が取り上げられ、ポイントも示されているが、活動の手順はない。</p>

発行者	総合的な所見
三省堂	<p>1 ① ・「めあて」という表記はない。 ・3, 4年生では, ページの右側に書き方のポイントが示されている。5, 6年生の毛筆の学習では, ページの右上に硬筆の例文が2つ示され, 書かせることによって比較させ, 目標を設定する構成になっている。</p> <p>② ・写真やイラストを使用し, 児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。</p> <p>③ ・書写の歴史に関する資料等のページ数は計3ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は2年生のみで, 昔話の1ページである。 ・伝統的な言語文化に関する内容が1学年のみで, 全学年において親しむような工夫が見られない。</p>
	<p>2 ④ ・身の回りで使用されている書体について, 1年生, 5年生, 6年生で示されている。 ・用具の種類は, 2年生, 4年生, 6年生で示されている。 ・手書きや活字等の書体についての記述はない。</p> <p>⑤ ・1, 2年生は, 「指でなぞろう」「書いて確かめよう」「ふり返ろう」の手順で示されている。3, 4年生は, 目標の次に練習し, 「鉛筆で書こう」「たしかめよう」の手順で示されている。5, 6年生は, 「めあて」「考えよう」「書いて確かめよう」「毛筆で確かめよう」の手順で示されている。 ・めあてと一致した2段階の評価項目で示され, できたら○の中に印を記入するようになっている。 ・全学年, 振り返りやまとめの具体的な言葉は示されていない。毛筆のまとめとしての単元がない。</p> <p>⑥ ・5, 6年生で発展的な学習「はってん」が設定されている。 ・楷書と行書の違いとして, 中学校で学習することが示されている。鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり, 次の学年の学習にふれるような工夫がされている。</p>
	<p>3 ⑦ ・配列は, 3年生以上で「毛筆」「硬筆」「硬筆に生かそう」となっており, 毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 ・硬筆教材が極端に少ない学年がある。(毛筆が始まる3年生以上)</p>
	<p>4 ⑧ ・1年生では, とめ, はね, はらいが擬音とイラストで示されている。2年生以上は擬音で表されている。始筆の穂先の向きが, 折り紙のイラストを用いて示されている。 ・毛筆の単元は, 主に見開き2ページで示し, 手本と比較しながらポイントを整理させることができる。 ・3年生(毛筆入門期)では, 写真, 擬音, 1文の説明, 吹き出し, イラストでポイントを分かりやすく示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑨ ・「ひろげよう」として全学年示されている。教科の関連は示されていない。 ・「ひろげよう」として, 活動の手順, 完成作品例, レイアウトが示されている。他の教科や日常生活に生かせる言語活動の例が取り上げられ, 活動の手順も示されているが, 具体的なポイントが示されていない。</p>

発行者	総合的な所見
<p>教出</p>	<p>1 ① ・1, 2年生には、「めあて」という表記はないが、その代わりにマークで示されている。 ・3～6年生の縦書きの場合は見開き右ページの右側に、横書きの場合は左上側に「めあて」と明記し、その下に「～に気をつけて書こう。」等の技能のめあてが明確に示されている。</p> <p>② ・写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されているが、入門期の1年生で良い姿勢を示す合い言葉がない。</p> <p>③ ・書写の歴史に関する資料等のページ数は計10ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、2～6年生において計11ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容が1年生になく、全学年において親しむような工夫が見られない。</p>
	<p>2 ④ ・身の回りで使用されている書体について、全学年で示されている。 ・用具の種類は、全学年で示されている。 ・書体は3年生, 5年生, 6年生で示されている。</p> <p>⑤ ・1, 2年生は、「ゆびでなぞってみよう」「えんぴつでなぞってみよう」「どこにちがいはあるか、みつけよう」「ことばでかいてみよう」「ふりかえり」の手順で示されている。3年生以上は、「めあて」「考えよう」「ここが大切(れんしゅう)」「生かそう」「振り返ろう」の手順で示されている。 ・1, 2年生は2段階の評価項目で、3年生以上はめあてと一致した3段階の評価項目で示されている。 ・学年末の「学習のまとめ」で、児童がめあてを設定する視点を示されているが、具体的なポイントは示されていない。</p> <p>⑥ ・6年生で発展的な学習「もっと知りたい 発展」が設定されている。 ・6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり、次の学年の学習に触れるような工夫が見られる。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」「硬筆(発展)」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列である。 ・硬筆教材が極端に少ない学年がある。(毛筆が始まる3年生以上)</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生はイラストと擬音で、3年生以上は擬音のみで表されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 ・毛筆の単元は、主に見開き2ページで示されている。左のページには大きめの手本と筆順が示され、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。 ・3年生(毛筆入門期)では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントが分かりやすく示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑨ ・「トライあんどチャレンジ」として全学年示されている。教科の関連が示されている。 ・「トライあんどチャレンジ」では活動の手順、レイアウト、完成作品例が示されている。文字の大きさや筆記用具、レイアウト上の注意事項が示され、他の教科や日常生活に生かすことができるようになっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
光村	<p>1 ① ・「めあて」という表記はないが、全学年で、ページの右端に単元のめあてが示されている。 ・見開きの2ページの中に、整った文字の書き方のポイントが「たいせつ」という言葉とともに示されている。</p> <p>② ・写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。</p> <p>③ ・書写の歴史に関する資料等のページ数は計2ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、4～6年生において計4ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容が1～3年生になく、全学年において親しむような工夫が見られない。</p>
	<p>2 ④ ・身の回りで使用されている書体について、4年生、6年生で示されている。 ・用具の種類は、5、6年生で示されている。 ・書体は4年生、5年生で示されている。</p> <p>⑤ ・1、2年生は、「なぞってみよう」「えんぴつでなぞろう」「できたかな」の手順で示されている。 ・3、4年生は「すみのついていない筆でなぞろう」「毛筆で書こう」「学習を生かして書こう」「ふり返ろう」の手順で示されている。 ・5、6年生は、「学習のポイントを確かめよう」「毛筆で書こう」「えんぴつで書こう」「ふり返ろう」の手順で示されている。 ・1、2年生は2段階の評価項目で、3年生以上はめあてと一致した3段階の評価項目で示されている。 ・学年末の「学習のまとめ」では、これまでの学習は示されているが、児童がめあてを焦点化しにくい。</p> <p>⑥ ・5、6年生で発展的な学習「チャレンジ」が設定されている。 ・5、6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。俳句を鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり、伝統的な言語文化に親しめるような工夫が見られる。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 ・5、6年生は、3、4年生と比べ、毛筆教材が少なく、硬筆教材が多い。(毛筆が始まる3年生以上)</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生はイラストと擬音で、3年生以上は擬音で表されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 ・毛筆の単元は主に見開き2ページで示し、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。 ・3年生(毛筆入門期)では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントが分かりやすく示されている。また、手本の1ページの中にもポイントが示されているが、1ページに様々な要素が入り過ぎ、児童が意識しにくい。</p>
	<p>5 ⑨ ・「資料」として全学年示されている。教科の関連が示されている。 ・「資料」として、完成作品例とポイントが示されている。他の教科や日常生活に生かせる言語活動の例が示されている。活動の手順やレイアウトは示されていない。</p>

発行者	総合的な所見
1 ① ② ③	<ul style="list-style-type: none"> ① ・「めあて」という表記はない。 ・全学年でページの右端に学年ごとに注目させるようなマークを付けてめあてが示されている。 ・マークの下に「～を考えて書こう。」「～に気をつけて～を書こう。」等、技能のめあてが明確に示されている。 ② ・写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。 ③ ・書写の歴史に関する資料等のページ数は計6ページある。 ・伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、全学年において計15ページある。 ・全学年において、伝統的な言語文化に親しむことができるように多様な種類が掲載されている。 <p style="text-align: right;">【◎】</p>
2 ④ ⑤ ⑥	<ul style="list-style-type: none"> ④ ・身の回りで使用されている書体について、1年生、5年生、6年生で示されている。 ・用具の種類は、5、6年生で示されている。 ・書体は4～6年生で示されている。 ⑤ ・1、2年生は、「かんがえる」（なぞる）「たしかめる」「かいてみる」「できたかな」の手順で示されている。3年生以上は、「考える」「確かめる」「いかす」「できたかな」の手順で示されている。 ・めあてと一致した2段階の評価項目で示し、できたら□の中に○を記入するようになっていいる。 ・学年末の「学習のまとめ」では、これまでの学習を踏まえて、本時の視点やポイントを確認した上で児童がめあてを設定する手順が分かりやすく示されている。 ⑥ ・5、6年生で発展的な学習「チャレンジ」が設定されている。 ・5、6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。俳句を鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり、伝統的な言語文化に親しめるような工夫が見られる。 <p style="text-align: right;">【◎】</p>
3 ⑦	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ ・配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 ・教材数に偏りがある。硬筆記入欄のページ数が極端に少ない学年がある。（毛筆が始まる3年生以上） <p style="text-align: right;">【○】</p>
4 ⑧	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ ・1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生はイラストと擬音で、3年生以上は擬音で表されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 ・毛筆の単元は主に見開き2ページで示し、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。 ・3年生（毛筆入門期）では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントが分かりやすく示されている。 <p style="text-align: right;">【○】</p>
5 ⑨	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ ・「ひろがる まなび」「もっと書こう」で全学年に示されているが、1年生には、他の教科に生かす例が示されていない。 ・「もっと書こう」では、活動の手順と完成作品例とポイントが示されている。他の教科や日常生活に生かせる言語活動の例が取り上げられているが、レイアウトが示されていない。

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③	
視点	単元・題材の目標の示し方	姿勢、執筆法、用具の扱いの示し方	伝統と文化に関する内容の記述	
方法	各単元・題材における明確な目標の示し方	正しい姿勢や執筆法、用具の扱い方の写真やイラストでの示し方	書写の歴史に関する資料等の内容及びページ数、伝統的な言語文化に関する内容及びページ数	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」という表記はない。 1、2年生はページの右上にめあてを示すマークやイラストが使用されている。 3年生以上は、ページの右上に「調べよう」という項目が設けられ、「～について調べよう」「～について考えよう」等、技能のめあてが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書写の歴史に関する資料等のページ数は計5ページある。 伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、全学年において計10ページある。 全学年において、伝統的な言語文化に親しむことができるように多様な種類が掲載されている。 	○
学図	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で、ページの右端に学習すること(めあて)のマークが付けられている。「～に気をつけて書こう。」「～に注意して～を書こう。」等、技能のめあてが具体的な表現で示され、その中のポイントとなる言葉には色付けされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書写の歴史に関する資料等のページ数は計5ページある。 伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、全学年において計8ページある。 伝統的な言語文化に関する内容が全学年にあるが、中国の古典等に親しむような教材はない。 	○
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」という表記はない。 3、4年生では、ページの右側に書き方のポイントが示されている。5、6年生の毛筆の学習では、ページの右上に硬筆の例文が2つ示され、書かせることによる比較させ、目標を設定する構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書写の歴史に関する資料等のページ数は計3ページある。 伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は2年生のみで、昔話の1ページである。 伝統的な言語文化に関する内容が1学年のみで、全学年において親しむような工夫が見られない。 	
教出	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生には、「めあて」という表記はないが、その代わりにマークで示されている。 3～6年生の縦書きの場合は見開き右ページの右側に、横書きの場合は左上側に「めあて」と明記し、その下に「～に気をつけて書こう。」等の技能のめあてが明確に示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されているが、入門期の1年生で良い姿勢を示す合い言葉がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 書写の歴史に関する資料等のページ数は計10ページある。 伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、2～6年生において計11ページある。 伝統的な言語文化に関する内容が1年生になく、全学年において親しむような工夫が見られない。 	
光村	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」という表記はないが、全学年で、ページの右端に単元のめあてが示されている。 見開きの2ページの中に、整った文字の書き方のポイントが「たいせつ」という言葉とともに示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書写の歴史に関する資料等のページ数は計2ページある。 伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、4～6年生において計4ページある。 伝統的な言語文化に関する内容が1～3年生になく、全学年において親しむような工夫が見られない。 	
日文	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」という表記はない。 全学年でページの右端に学年ごとに注目させるようなマークを付けてめあてが示されている。 マークの下に「～を考えて書こう。」「～に気をつけて～を書こう。」等、技能のめあてが明確に示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストを使用し、児童が具体的にイメージできるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書写の歴史に関する資料等のページ数は計6ページある。 伝統的な言語文化に関する内容及びページ数は、全学年において計15ページある。 全学年において、伝統的な言語文化に親しむことができるように多様な種類が掲載されている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫

	④	⑤	⑥	
視点	興味・関心を高めるための工夫	見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫	発展的な学習の扱い方	
方法	身の回りで使用されている書体の具体例、用具の種類、書体	学習の手順の示し方 振り返りやまとめの視点の示し方、自己評価欄の有無と記入方法	発展的な学習における資料の表記・配置、単元名、内容の提示	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りで使用されている書体について、3年生以上で示されている。 用具の種類は、1年生、5年生、6年生で示されている。3年生で熊野筆の筆づくりについて取り上げ、書に親しみをもたせるような工夫がされている。 書体は4年生、6年生で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生は「気をつけることは何かな」「書いてみよう」「できたらシールをはろう」の手順で示されている。3年生以上は「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「振り返ろう」の手順で示されている。 めあてと一致した2段階の自己評価項目で示されている。 1, 2年生は自己評価用のシールを付けるように、3年生以上は○か△を選択するようになっている。 学年末の「学習のまとめ」で、めあてを設定する視点が爪見出しに示されているが、具体的なポイントは示されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年に発展的な学習「生活に広げよう」が設定され、「ノートに書こう」等、次の学年の学習につながるような工夫が見られる。 6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり、次の学年の学習に触れるような工夫が見られる。 	◎
学図	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りで使用されている書体について、1年生、5年生で示されている。 用具の種類は、2年生、5年生、6年生で示されている。3年生で熊野筆の筆づくりについて取り上げ、書に親しみをもたせるような工夫がされている。 書体は4年生で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生は、「はじめ」「がくしゅうすること」「れんしゅう」「まとめ」「かけたかな」の手順で示されている。3年生以上は、「めあて」「ためし書き」「自分の課題」「練習」「まとめ書き」「ふり返り」の手順で示されている。 めあてと一致した2段階の評価項目で示され、できたら○の中に表情を記入するようになっている。 学年末の「学習のまとめ」で、児童がめあてを設定するようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生で発展的な学習「発展」が設定されている。 6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。手本が示されているが、実際に書く内容が十分ない。 	
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りで使用されている書体について、1年生、5年生、6年生で示されている。 用具の種類は、2年生、4年生、6年生で示されている。 手書きや活字等の書体についての記述はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生は、「指でなぞろう」「書いて確かめよう」「ふり返ろう」の手順で示されている。3, 4年生は、目標の次に練習し、「鉛筆で書こう」「たしかめよう」の手順で示されている。5, 6年生は、「めあて」「考えよう」「書いて確かめよう」「毛筆で確かめよう」の手順で示されている。 めあてと一致した2段階の評価項目で示され、できたら○の中に印を記入するようになっている。 全学年、振り返りやまとめの具体的な言葉は示されていない。毛筆のまとめとしての単元がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生で発展的な学習「発展」が設定されている。 6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられているが、実際に書くことにつなぐりにくい。 	
教出	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りで使用されている書体について、全学年で示されている。 用具の種類は、全学年で示されている。 書体は3年生、5年生、6年生で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生は、「ゆびでなぞってみよう」「えんぴつでなぞってみよう」「どこにちがいがあるか、みつけよう」「ことばでかいてみよう」「ふりかえり」の手順で示されている。3年生以上は、「めあて」「考えよう」「ここが大切(れんしゅう)」「生かそう」「振り返ろう」の手順で示されている。 1, 2年生は2段階の評価項目で、3年生以上はめあてと一致した3段階の評価項目で示されている。 学年末の「学習のまとめ」で、児童がめあてを設定する視点を示されているが、具体的なポイントは示されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 5, 6年生で発展的な学習「はってん」が設定されている。 楷書と行書の違いとして、中学校で学習することが示されている。鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり、次の学年の学習にふれるような工夫がされている。 	○
光村	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りで使用されている書体について、4年生、6年生で示されている。 用具の種類は、5, 6年生で示されている。 書体は4年生、5年生で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生は、「なぞってみよう」「えんぴつでなぞろう」「できたかな」の手順で示されている。 3, 4年生は「すみのついていない筆でなぞろう」「毛筆で書こう」「学習を生かして書こう」「ふり返ろう」の手順で示されている。 5, 6年生は、「学習のポイントを確かめよう」「毛筆で書こう」「えんぴつで書こう」「ふり返ろう」の手順で示されている。 1, 2年生は2段階の評価項目で、3年生以上はめあてと一致した3段階の評価項目で示されている。 学年末の「学習のまとめ」では、これまでの学習は示されているが、児童がめあてを焦点化しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生で発展的な学習「もっと知りたい 発展」が設定されている。 6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり、次の学年の学習に触れるような工夫が見られる。 	○
日文	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りで使用されている書体について、1年生、5年生、6年生で示されている。 用具の種類は、5, 6年生で示されている。 書体は4～6年生で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生は、「かんがえる」(なぞる)「たしかめる」「かいてみる」「できたかな」の手順で示されている。3年生以上は、「考える」「確かめる」「いかす」「できたかな」の手順で示されている。 めあてと一致した2段階の評価項目で示し、できたら□の中に○を記入するようになっている。 学年末の「学習のまとめ」では、これまでの学習を踏まえて、本時の視点やポイントを確認した上で児童がめあてを設定する手順が分かりやすく示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 5, 6年生で発展的な学習「チャレンジ」が設定されている。 5, 6年生で、中学校で学習する行書が取り上げられている。俳句を鉛筆でなぞる硬筆記入欄があり、伝統的な言語文化に親しめるような工夫が見られる。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点3】 内容の構成・配列・分量		【観点4】 内容の表現・表記		【観点5】 言語活動の充実	
⑦		⑧		⑨	
視点	単元・題材や資料等の配列	本文記述との適切な関連付けがなされた写真・図・イラスト等の活用		学習や日常生活に生きる言語活動の工夫	
方法	学年総ページ数、毛筆教材数、硬筆教材数、硬筆記入欄のページ数	写真・図・イラスト等による筆使いや筆順等のポイントの提示		各教科等の学習や日常生活に生きる多様な表現活動の例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」「硬筆に広げよう」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 教材数に大きなばらつきはない。(毛筆が始まる3年生以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生はイラストと擬音で、3年生以上は擬音で示されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 毛筆の単元は主に見開き2ページで示し、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。また、手本の1ページの中にもポイントが示されている。 3年生(毛筆入門期)では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントが分かりやすく示されている。手本の1ページの中にもポイントが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活にひろげよう」として全学年示されている。教科の関連が示されている。 「生活にひろげよう 手書き文字で伝えよう」では、活動の手順、レイアウト、完成作品例が示されている。活動の手順のポイントを示し、その中で、レイアウトの文字の大きさの具体例や、図表の効果的な書き方、取り入れ方が示され、他の教科や日常生活に生かすことができるよう工夫されている。 	◎	◎
	<ul style="list-style-type: none"> 配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」「硬筆に生かそう」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 硬筆教材が極端に少ない学年がある。(毛筆が始まる3年生以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生以上は「止めるしるし」等、記号にして示されている。始筆の穂先の向きが、三角定規のイラストを用いて示されている。 毛筆の単元が4ページで示され、ポイントが別のページに示されているので、ポイントを意識させにくい。 3年生(毛筆入門期)では、写真、3文の説明、イラストでポイントが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「楽しんで書こう」(1, 2年生)、「硬筆に生かそう」(3~6年生)等で全学年示されている。教科の関連が示されている。 「資料」として完成作品例、レイアウトが示されている。他の教科や日常生活に生かせる言語活動の例が取り上げられ、ポイントも示されているが、活動の手順はない。 	○	○
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> 配列は、3, 4年生で「毛筆」「硬筆」、5, 6年生で「硬筆」「毛筆」となっており、毛筆を基本とした配列になっていない学年がある。 硬筆教材が少ない学年がある。(毛筆が始まる3年生以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生では、とめ、はね、はらいが擬音とイラストで示されている。2年生以上は擬音で表されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 毛筆の単元は、主に見開き2ページで示し、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。 3年生(毛筆入門期)では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントを分かりやすく示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ひろげよう」として全学年示されている。教科の関連は示されていない。 「ひろげよう」として、活動の手順、完成作品例、レイアウトが示されている。他の教科や日常生活に生かせる言語活動の例が取り上げられ、活動の手順も示されているが、具体的なポイントが示されていない。 	○	○
	<ul style="list-style-type: none"> 配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」「硬筆(発展)」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列である。 硬筆教材が極端に少ない学年がある。(毛筆が始まる3年生以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生はイラストと擬音で、3年生以上は擬音のみで表されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 毛筆の単元は、主に見開き2ページで示されている。左のページには大きめの手本と筆順が示され、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。 3年生(毛筆入門期)では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントが分かりやすく示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「トライあんどチャレンジ」として全学年示されている。教科の関連が示されている。 「トライあんどチャレンジ」では活動の手順、レイアウト、完成作品例が示されている。文字の大きさや筆記用具、レイアウト上での注意事項が示され、他の教科や日常生活に生かすことができるようになっていく。 	○	○
光村	<ul style="list-style-type: none"> 配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 5, 6年生は、3, 4年生と比べ、毛筆教材が少なく、硬筆教材が多い。(毛筆が始まる3年生以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生はイラストと擬音で、3年生以上は擬音で表されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 毛筆の単元は主に見開き2ページで示し、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。 3年生(毛筆入門期)では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントが分かりやすく示されている。また、手本の1ページの中にもポイントが示されているが、1ページに様々な要素が入り過ぎ、児童が意識しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「資料」として全学年示されている。教科の関連が示されている。 「資料」として、完成作品例とポイントが示されている。他の教科や日常生活に生かせる言語活動の例が示されている。活動の手順やレイアウトは示されていない。 	○	○
	<ul style="list-style-type: none"> 配列は、3年生以上で「毛筆」「硬筆」となっており、毛筆を基本として硬筆に発展させる配列となっている。 教材数に偏りがある。硬筆記入欄のページ数が極端に少ない学年がある。(毛筆が始まる3年生以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、動物のキャラクターのイラストとともに、とめ、はね、はらいが擬音で示されている。2年生はイラストと擬音で、3年生以上は擬音で表されている。始筆の穂先の向きが、折り紙のイラストを用いて示されている。 毛筆の単元は主に見開き2ページで示し、手本と比較しながらポイントを整理させることができる。 3年生(毛筆入門期)では、写真、擬音、1文の説明、吹き出し、イラストでポイントが分かりやすく示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ひろがる まなび」「もっと書こう」で全学年に示されているが、1年生には、他の教科に生かす例が示されていない。 「もっと書こう」では、活動の手順と完成作品例とポイントが示されている。他の教科や日常生活に生かせる言語活動の例が取り上げられているが、レイアウトが示されていない。 	○	○

◎:特に優れている, ○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「社会」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①単元・題材の目標の示し方	○1時間ごとの目標の記載の仕方及び具体例	
	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	○(第3・4学年)地域の古い道具,年中行事,地域の発展に尽くした先人の具体的事例の記述 ○(第5学年)国土の地形や気候の概要,自然条件から見て特色のある地域の人々の生活,環境保全や自然災害の防止についての記述 ○(第6学年)世界文化遺産の記述及び掲載されている世界文化遺産,歴史上の人物の扱い及び事例	
	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	○(第3・4学年)47都道府県の学び方の例 ○(第5学年)世界の主な大陸と海洋及び世界の主な国の名称と位置,我が国の位置及び領土の記述 ○(第6学年)世界の中の日本の役割についての記述	
主体的に学習に取り組む工夫	④興味・関心を高めるための工夫	○導入の工夫及び興味・関心を高める問いの例 ○呉市や広島県に関する記述	
	⑤見通しを立てたり,振り返ったりする学習のための構成上の工夫	○学び方のポイントとまとめの例	
	⑥作業的・体験的な学習を実施するための工夫	○作業的・体験的な学習の例及び具体的な事例	
内容の構成・配列・分量	⑦単元・題材や資料等の配列	○単元の構成・事例の取扱い	
	⑧単元・題材ごとの分量や問題数等	○各単元の構成,補充的・発展的教材の分量,バランス	
内容の表現・表記	⑨本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	○使用されている写真,地図,グラフ等の資料及び小單元における資料の種類と数	
	⑩本文以外の記述の工夫	○脚注・側注の扱い	
言語活動の充実	⑪観察・調査や資料活用を通して入手した情報を的確に記録し,それらを再構成するとともに,お互いの考えを深めていくための工夫	○観察・調査や資料活用を通して入手した情報を的確に記録し,それらを再構成するとともに,お互いの考えを深めていくための学習活動例	
	⑫調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫	○新聞,地図,年表,レポート,ホームページなどでのまとめ方及び具体例	

※観点ごとに,特に優れていると考えられるものに【◎】,優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・見開きごとに学習内容・方法等が提示され、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」の学習過程とともに問いかけで目標が提示されている。 ・全ての学年で目標と学習過程が合わせて記述されており、学習の進み方が分かりやすい。 ・具体例「わたしたちは、ふだんどんな店によく行くでしょうか。」</p> <p>② ・児童が意欲的に学びたくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 ・国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って効果的に示され、グラフなどの数値も記載されているので理解しやすい。 ・自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 ・自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。 ・世界文化遺産の説明があり、日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 ・歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。</p> <p>③ ・都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために、都道府県の位置を確認したり、都道府県の形を示したカードに特産品や都道府県名を書き込むなどの効果的な工夫がされている。 ・大陸と海洋は、世界地図とともに、大陸ごとの5つの地球儀の絵で示されており、大陸等の位置や形が正確に理解できる。主な世界の国々も示されている。 ・我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 ・世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が多方面から紹介されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ④ ・大単元の導入において、見開きや観音開きのページ構成で、絵や写真などが提示され、大単元の内容に関するキャラクターの問いかけや大単元の「めあて」があわせて掲載されている。 ・問いの例（3・4年生） 町の様子を表した絵を提示し、キャラクターが「みんなが住むまちと、にているところがあるのかな。」と問いかけている。 ・呉市、広島県に関する記述がある。</p> <p>⑤ ・見開きで「学習の進め方」のコーナーが設けられ、学習問題の作り方、調べ方、まとめ方のポイントや例が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の流れで説明されている。全学年において、それぞれのポイントやまとめの例が分かりやすく示されている。 ・まとめの例（3・4年生） 地いきにのこる古いものについて、れきしマップにまとめる。</p> <p>⑥ ・作業や体験が豊富に用意され児童がさまざまな作業や体験をおこなうように工夫されている。 ・具体的な事例（6年生） 3人の武将に伝えたいことをメッセージに書く。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・ワイド版でそれぞれの単元で扱うにふさわしい事例が選択されている。</p> <p>⑧ ・問題解決的な学習を進めるための単元構成になっている。 ・補充的・発展的教材が豊富に用意されている。 ・各単元がバランスよく配列されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑨ 主に写真、イラスト、地図、図表、グラフが掲載され、各小単元で適切な関連付けがされた資料が掲載されている。</p> <p>⑩ ・「めあて」、「つかむ」、「学習問題」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」、「まなびのポイント」、「学び方コーナー」、「話し合おう」、「やってみよう」といったキーワードが掲載されており、「いかす」では、社会的な事柄に参画、提案する学習の充実が図られている。 ・「ことば」で用語の解説がされている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑪ ・調べたことをまとめ、考えを深める学習の例が記載されている。</p> <p>⑫ ・表現方法が豊富に例示されている。 ・具体例（6年生）「これまで学んだことを生かし、中学校社会科への期待について、意見文を書こう。」</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
教出	<p>1 ① ・見開きごとに学習内容・方法等が提示され、問いかけで目標が提示されている。 ・学習過程は示されていないが、3、4年生の上下巻には、目標に至るための学習過程の例が示されており、学習の進め方が分かりやすい。 ・具体例「家の人たちは、どこで買い物をする人が多いのだろう。」</p> <p>② ・児童が意欲的に学びたいくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 ・国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って説明されている。 ・自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 ・自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。 ・日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 ・歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。</p> <p>③ ・都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために日本地図を示したページに都道府県の名前をあてるクイズをつくってみようというコーナーを設けるなど工夫がされている。 ・大陸と海洋は、地球儀の絵で示されており、大陸等の位置や形が正確に理解できる。主な世界の国々も示されている。 ・我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 ・世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が紹介されている。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
	<p>2 ④ ・大単元の導入において、見開きページ構成で、絵や写真などが提示され、大単元の内容に関するキャラクターの問いかけや大単元のめあてを示した「学んでいこう」があわせて掲載されている。 ・問いの例（3・4年生） 町の様子を表した絵を提示し、キャラクターが「わたしたちのまちには、どんなものがあるかな。」と問いかけている。 ・広島県に関する記述がある。</p> <p>⑤ ・見開きで「学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」のコーナーが設けられ、学習問題の作り方、調べ方、まとめ方のポイントや例が「つかむ」「調べる」「まとめる・深める」の流れで説明されている。また、3・4年生では、上巻の巻末に、「社会科ガイド」のコーナーがあり、調べ方の例が詳しく示されており、具体的で分かりやすい。 ・まとめの例（3・4年生） 道具やくらしが変わってきたのは、人々のどのような知恵や願いがあったためなのか、考えてノートに書く。</p> <p>⑥ ・作業や体験が用意され児童がさまざまな作業や体験をおこなうように工夫されている。 ・具体的な事例（5年生） 3人の武将に向けたインタビューに、それぞれの人物の立場になって答える。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
	<p>3 ⑦ ・ワイド版でそれぞれの単元で扱うにふさわしい事例が選択されている。</p> <p>⑧ ・問題解決的な学習を進めるための単元構成になっている。 ・補充的・発展的教材が用意されている。 ・各単元がバランスよく配列されている。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
	<p>4 ⑨ 主に写真、イラスト、地図、図表、グラフが掲載され、各小単元で適切な関連付けがされた資料が掲載されている。</p> <p>⑩ ・「学んでいこう」、「?（毎時間の課題）」、「活動（毎時間の時間）」、「学習問題」、「まとめる」、「学習のてびき」、「やってみよう」といったキーワードが掲載されている。 ・「キーワード」で用語が解説されている。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
	<p>5 ⑪ ・調べたことをまとめ、考えを深める学習の例が記載されている。</p> <p>⑫ ・表現方法が例示されている。 ・具体例（6年生）「よりよい社会をつくっていくために自分たちはどのように参加していくかを考えながら、これから実行したいことや、中学校で学んでいきたいことを、宣言文にまとめよう。」</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>

発行者	総合的な所見
光村	<p>1 ① ・見開きごとに学習内容・方法等が提示され、「見つける」、「調べる・話し合う」、「まとめる・広げる」の学習過程とともに、問いかけで目標が提示されている。 ・全ての学年で目標と学習過程が合わせて記述されており、学習の進み方が分かりやすい。 ・具体例「よく行く店は、どこだろう。」</p> <p>② ・児童が意欲的に学びたくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 ・国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って説明されている。 ・自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 ・自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。 ・日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 ・歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。</p> <p>③ ・都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために日本地図上に、都道府県の位置や名所等のイラストが掲載されたページを設けるなどの工夫がされている。 ・大陸と海洋は、世界地図で示されている。面積や距離に違いが生じるが、大陸等の位置は理解できる。世界の主な国々も示されている。 ・我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 ・世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が紹介されている。</p>
	【○】
	<p>2 ④ ・大単元の導入において、見開きや観音開きのページ構成で、絵や写真などが提示されている。全学年で大単元のめあてが示されており、3、4年生では、キャラクターの問いかけをあわせて示されているが、5、6年生は、印象的な絵や写真だけで説明がない。 ・問いの例（3・4年生） まちのさまざまな場所に調べに出かけている様子の写真6枚を掲示するとともに、2人の小学生の写真とふきだして「ぼくたちのまちのことを、もっと知りたいな。」「いろいろな人に会って、話を聞いてみたい。」と問いかけている。 ・広島県に関する記述がある。</p> <p>⑤ ・見開きで「ようこそ社会科へ」等のコーナーを設けられ、「ホップ／みつける」「ステップ／調べる、話し合う」「ジャンプ／まとめる、広げる」の流れで説明されている。ポイントやまとめの例が示されているが、説明や具体的な例が少ない。 ・まとめの例（3・4年生） 昔と今のくらしのちがいを年表にまとめる。</p> <p>⑥ ・作業や体験が用意されている。 ・具体的な事例（6年生） 3人の武将の人物年表をつくり、好きな人物を選んで、その理由を発表する。</p>
	<p>3 ⑦ ・ワイド版でそれぞれの単元で扱うにふさわしい事例が選択されている。</p> <p>⑧ ・問題解決的な学習を進めるための単元構成になっているが、大単元終了時に大単元全体のまとめの学習がない。 ・補充的・発展的教材が用意されているが、単元によっては児童の実態にあわせ、選択したり活用したりしにくいものもある。 ・各単元がバランスよく配列されている。</p> <p>4 ⑨ 主に写真、イラスト、地図、図表、グラフが掲載され、各小単元で適切な関連付けがされた資料が掲載されている。</p> <p>⑩ ・「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」、「クラスの学習問題」、「たいせつ」といったキーワードが掲載されている。 ・「ことば」で用語の解説がされているが、数としては少ない。</p> <p>5 ⑪ ・調べたことをまとめ、考えを深める学習の例が記載されている。</p> <p>⑫ ・表現方法が豊富に例示されている。 ・具体例（6年生）それぞれが興味をもったことを調べ、みんなで話し合い、「地球の未来に向けての意見文」を書く。</p>
	【◎】

発行者	総合的な所見
日文	1 ① ・見開きごとに学習内容・方法等が提示され、問いかけで目標が提示されているが、学習過程は示されていない。 ・具体例「家の人がよく買い物をするのは、どんな店なのだろう。」 ② ・児童が意欲的に学びたくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 ・国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って説明されている。 ・自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 ・自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。また、災害が及ぼす影響についても詳しく記述されており理解が深まるようになっている。 ・世界文化遺産の説明があり、日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 ・歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。 ③ ・都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために、都道府県名を書き込むための白地図や都道府県を使った問題をつくらせるページを設けるなどの工夫がされている。 ・大陸と海洋は、世界地図で示されている。面積や距離に違いが生じるが、大陸等の位置は理解できる。世界の主な国々も示されている。 ・我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 ・世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が紹介されている。
	2 ④ ・大単元の導入において、見開きや観音開きのページ構成で、絵や写真などが提示され、大単元の内容に関するキャラクターの問いかけや大単元のめあてを示した「学習のまど」があわせて掲載されている。 ・問いの例（3・4年生） 町の様子を表した写真を提示し、キャラクターが「学校の近くにあるスーパーマーケットだね。たくさんの人が買い物に来るよ。」「わたしたちの学校だね。」「まちの人たちが音楽を楽しむためのしせつだよ。たくさんの人がりようしているよ。」「古くからある神社だよ。友だちとよく遊ぶところだよ。」「この広い道路にはたくさんのお自動車が走っているよ。道路ぞいには、いろいろな店や会社があるよ。」と問いかけている。 ・広島県に関する記述がある。 ⑤ ・見開きで「この教科書のしくみ」コーナーが設けられ、「見る・調べる」、「読み取る」、「表現する」の流れで説明している。学び方やまとめ方のポイントや例を表で示しているが、説明や具体例が少ない。 ・まとめの例（3・4年生） 昔の道具について学習したことや、調べた方法について、話合いで振り返る。 ⑥ ・作業や体験が用意されている。 ・具体的な事例（6年生） 4人の人物ごとに図にまとめ、「4人の人物は、武士が支配する社会のしくみをつくり直すためにどんな役割を果たし、前の人から何を受け継いだのだろうか。」ということについて、考えを聞きあう。
	3 ⑦ ・ワイド版でそれぞれの単元で扱うにふさわしい事例が選択されている。 ⑧ ・問題解決的な学習を進めるための単元構成になっている。 ・補充的・発展的教材が用意されているが、単元によっては児童の実態にあわせ、選択したり活用したりしにくいものもある。 ・各単元がバランスよく配列されている。
	4 ⑨ ・主に写真、イラスト、地図、図表、グラフが掲載され、各小単元で適切な関連付けがされた資料が掲載されている。 ⑩ ・「学習のまど」、「?（毎時間の問題）」、「!（まとめ）」、次につながる学習問題、「学び方・調べ方コーナー」、「考えるヒント」、「やってみよう」といったキーワードが掲載されている。 ・「キーワード」、「むずかしい言葉」で用語の解説がされている。 <div style="text-align: right;">【〇】</div>
	5 ⑪ ・調べたことをまとめ、考えを深める学習の例が記載されている。 ⑫ ・表現方法が例示されている。 ・具体例（6年生）「これまでの学習をふりかえって、日本人の役割として、自分に何ができるか考え、ふりかえりシート『わたしが、できること、考えていきたいことは、これだ!』を書こう。」

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③
視点	単元・題材の目標の示し方	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
方法	1時間ごとの目標の記載の仕方及び具体例	(第3・4学年)地域の古い道具、年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例の記述 (第5学年)国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色のある地域の人々の生活、環境保全や自然災害の防止についての記述 (第6学年)世界文化遺産の記述及び掲載されている世界文化遺産、歴史上の人物の扱い及び事例	(第3・4学年)47都道府県の学び方の例 (第5学年)世界の主な大陸と海洋及び世界の主な国の名称と位置、我が国の位置及び領土の記述 (第6学年)世界の中の日本の役割についての記述
東書	<ul style="list-style-type: none"> 見開きごとに学習内容・方法等が提示され、「つかむ」、「調べる」、「まとめ」の学習過程とともに問いかけで目標が提示されている。 全ての学年で目標と学習過程が合わせて記述されており、学習の進み方が分かりやすい。 具体例「わたしたちは、ふだんどんな店によく行くでしょうか。」 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に学びたくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って効果的に示され、グラフなどの数値も記載されているので理解しやすい。 自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。 世界文化遺産の説明があり、日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために、都道府県の位置を確認したり、都道府県の形を示したカードに特産品や都道府県名を書き込むなどの効果的な工夫がされている。 大陸と海洋は、世界地図とともに、大陸ごとの5つの地球儀の絵で示されており、大陸等の位置や形が正確に理解できる。主な世界の国々も示されている。 我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が多方面から紹介されている。
	<ul style="list-style-type: none"> 見開きごとに学習内容・方法等が提示され、問いかけで目標が提示されている。 学習過程は示されていないが、3、4年生の上下巻には、目標に至るための学習過程の例が示されており、学習の進み方が分かりやすい。 具体例「家の人たちは、どこで買い物をすることが多いのだろう。」 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に学びたくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って説明されている。 自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。 日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために日本地図を示したページに都道府県の名前をあてるクイズをつくってみようというコーナーを設けるなど工夫がされている。 大陸と海洋は、地球儀の絵で示されており、大陸等の位置や形が正確に理解できる。主な世界の国々も示されている。 我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が紹介されている。
光村	<ul style="list-style-type: none"> 見開きごとに学習内容・方法等が提示され、「見つける」、「調べる・話し合う」、「まとめる・広げる」の学習過程とともに、問いかけで目標が提示されている。 全ての学年で目標と学習過程が合わせて記述されており、学習の進み方が分かりやすい。 具体例「よく行く店は、どこだろう。」 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に学びたくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って説明されている。 自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。 日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために日本地図上に、都道府県の位置や名所等のイラストが掲載されたページを設けるなどの工夫がされている。 大陸と海洋は、世界地図で示されている。面積や距離に違いが生じるが、大陸等の位置は理解できる。世界の主な国々も示されている。 我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が紹介されている。
	<ul style="list-style-type: none"> 見開きごとに学習内容・方法等が提示され、問いかけで目標が提示されているが、学習過程は示されていない。 具体例「家の人がよく買い物をするのは、どんな店なのだろう。」 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に学びたくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って説明されている。 自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。また、災害が及ぼす影響についても詳しく記述されており理解が深まるようになっている。 世界文化遺産の説明があり、日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために、都道府県名を書き込むための白地図や都道府県を使った問題をつくらせるページを設けるなどの工夫がされている。 大陸と海洋は、世界地図で示されている。面積や距離に違いが生じるが、大陸等の位置は理解できる。世界の主な国々も示されている。 我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が紹介されている。
日文	<ul style="list-style-type: none"> 見開きごとに学習内容・方法等が提示され、問いかけで目標が提示されているが、学習過程は示されていない。 具体例「家の人がよく買い物をするのは、どんな店なのだろう。」 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に学びたくなる事例や尊敬できる人物が取り上げられている。 国土の地形や気候の概要については写真やグラフを使って説明されている。 自然条件から見て特色のある地域の人々の生活については、特徴的な事例が掲載されている。 自然災害の防止等については、東日本大震災が取り上げられ、国や地方公共団体の取組がよく分かる内容となっている。また、災害が及ぼす影響についても詳しく記述されており理解が深まるようになっている。 世界文化遺産の説明があり、日本の代表的な文化遺産が紹介されている。 歴史上の人物の事例について、概ね、特徴を押さえた記述となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置や区分、特色、形を理解するために、都道府県名を書き込むための白地図や都道府県を使った問題をつくらせるページを設けるなどの工夫がされている。 大陸と海洋は、世界地図で示されている。面積や距離に違いが生じるが、大陸等の位置は理解できる。世界の主な国々も示されている。 我が国の位置と領土については、日本の位置を示す地図と東西南北の端の写真で紹介され、領土をめぐる問題がコラムで紹介されている。 世界の中の日本の役割については、国連の一員としての活動が紹介されている。

【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫

	④	⑤	⑥	
視点	興味・関心を高めるための工夫	見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫	作業的・体験的な学習を実施するための工夫	
方法	導入の工夫及び興味・関心を高める問いの例 ○呉市や広島県に関する記述	学び方のポイントとまとめの例	作業的・体験的な学習の例及び具体的な事例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の導入において、見開きや観音開きのページ構成で、絵や写真などが提示され、大単元の内容に関するキャラクターの問いかけや大単元の「めあて」があわせて掲載されている。 問いの例（3・4年生） 町の様子を表した絵を提示し、キャラクターが「みんなが住むまちと、にているところがあるのかな。」と問いかけている。 呉市、広島県に関する記述がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 見開きで「学習の進め方」のコーナーが設けられ、学習問題の作り方、調べ方、まとめ方のポイントや例が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の流れで説明されている。全学年において、それぞれのポイントやまとめの例が分かりやすく示されている。 まとめの例（3・4年生） 地いきにのこる古いものについて、れきしまップにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業や体験が豊富に用意され児童がさまざまな作業や体験をおこなうように工夫されている。 具体的な事例（6年生） 3人の武将に伝えたいことをメッセージに書く。 	◎
教出	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の導入において、見開きページ構成で、絵や写真などが提示され、大単元の内容に関するキャラクターの問いかけや大単元のめあてを示した「学んでいこう」があわせて掲載されている。 問いの例（3・4年生） 町の様子を表した絵を提示し、キャラクターが「わたしたちのまちには、どんなものがあるかな。」と問いかけている。 広島県に関する記述がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 見開きで「学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」のコーナーが設けられ、学習問題の作り方、調べ方、まとめ方のポイントや例が「つかむ」「調べる」「まとめる・深める」の流れで説明されている。また、3・4年生では、上巻の巻末に、「社会科ガイド」のコーナーがあり、調べ方の例が詳しく示されており、具体的で分かりやすい。 まとめの例（3・4年生） 道具やくらしが変わってきたのは、人々のどのような知恵や願いがあったためなのか、考えてノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業や体験が用意され児童がさまざまな作業や体験をおこなうように工夫されている。 具体的な事例（5年生） 3人の武将に向けたインタビューに、それぞれの人物の立場になって答える。 	○
光村	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の導入において、見開きや観音開きのページ構成で、絵や写真などが提示されている。全学年で大単元のめあてが示されており、3、4年生では、キャラクターの問いかけをあわせて示されているが、5、6年生は、印象的な絵や写真だけで説明がない。 問いの例（3・4年生） まちのさまざまな場所に調べに出かけている様子の写真6枚を掲示するとともに、2人の小学生の写真とふきだしで「ぼくたちのまちのことを、もっとしりたいな。」 「いろいろな人に会って、話を聞いてみたい。」と問いかけている。 広島県に関する記述がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 見開きで「ようこそ社会科へ」等のコーナーを設けられ、「ホップ/みつげる」「ステップ/調べる、話し合う」「ジャンプ/まとめる、広げる」の流れで説明されている。ポイントやまとめの例が示されているが、説明や具体的な例が少ない。 まとめの例（3・4年生） 昔と今のくらしのちがいを年表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業や体験が用意されている。 具体的な事例（6年生） 3人の武将の人物年表をつくり、好きな人物を選んで、その理由を発表する。 	
日文	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の導入において、見開きや観音開きのページ構成で、絵や写真などが提示され、大単元の内容に関するキャラクターの問いかけや大単元のめあてを示した「学習のまど」があわせて掲載されている。 問いの例（3・4年生） 町の様子を表した写真を提示し、キャラクターが「学校の近くにあるスーパーマーケットだね。たくさんの人が買い物に来るよ。」 「わたしたちの学校だね。」 「まちの人たちが音楽を楽しむためのしせつだよ。たくさんの方がりようしているよ。」 「古くからある神社だよ。友だちとよく遊ぶところだよ。」 「この広い道路にはたくさんのお車が走っているよ。道路ぞいには、いろいろな店や会社があるよ。」と問いかけている。 広島県に関する記述がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 見開きで「この教科書のしくみ」コーナーが設けられ、「見る・調べる」、「読み取る」、「表現する」の流れで説明している。学び方やまとめ方のポイントや例を表で示しているが、説明や具体例が少ない。 まとめの例（3・4年生） 昔の道具について学習したことや、調べた方法について、話し合いで振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業や体験が用意されている。 具体的な事例（6年生） 4人の人物ごとに図にまとめ、「4人の人物は、武士が支配する社会のしくみをつくり直すためにどんな役割を果たし、前の人から何を受け継いだのだろうか。」ということについて、考えを聞きあう。 	

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点3】
内容の構成・配列・分量

	⑦	⑧	
視点	単元・題材や資料等の配列	単元・題材ごとの分量や問題数等	
方法	単元の構成・事例の取扱い	各単元の構成, 補充的・発展的教材の分量, バランス	
東書	・ワイド版でそれぞれの単元で扱うにふさわしい事例が選択されている。	・問題解決的な学習を進めるための単元構成になっている。 ・補充的・発展的教材が豊富に用意されている。 ・各単元がバランスよく配列されている。	◎
教出	・ワイド版でそれぞれの単元で扱うにふさわしい事例が選択されている。	・問題解決的な学習を進めるための単元構成になっている。 ・補充的・発展的教材が用意されている。 ・各単元がバランスよく配列されている。	○
光村	・ワイド版でそれぞれの単元で扱うにふさわしい事例が選択されている。	・問題解決的な学習を進めるための単元構成になっているが、大単元終了時に大単元全体のまとめの学習がない。 ・補充的・発展的教材が用意されているが、単元によっては児童の実態にあわせ、選択したり活用したりしにくいものもある。 ・各単元がバランスよく配列されている。	
日文	・ワイド版でそれぞれの単元で扱うにふさわしい事例が選択されている。	・問題解決的な学習を進めるための単元構成になっている。 ・補充的・発展的教材が用意されているが、単元によっては児童の実態にあわせ、選択したり活用したりしにくいものもある。 ・各単元がバランスよく配列されている。	

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点4】
内容の表現・表記**

	⑨	⑩	
視点	本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	本文以外の記述の工夫	
方法	使用されている写真、地図、グラフ等の資料及び小單元における資料の種類と数	脚注・側注の扱い	
東書	主に写真、イラスト、地図、図表、グラフが掲載され、各小單元で適切な関連付けがされた資料が掲載されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」、「つかむ」、「学習問題」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」、「まなびのポイント」、「学び方コーナー」、「話し合おう」、「やってみよう」といったキーワードが掲載されており、「いかす」では、社会的な事柄に参画、提案する学習の充実が図られている。 ・「ことば」で用語の解説がされている。 	◎
教出	主に写真、イラスト、地図、図表、グラフが掲載され、各小單元で適切な関連付けがされた資料が掲載されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学んでいこう」、「? (毎時間の課題)」、「活動 (毎時間の時間)」、「学習問題」、「まとめる」、「学習のてびき」、「やってみよう」といったキーワードが掲載されている。 ・「キーワード」で用語が解説されている。 	○
光村	主に写真、イラスト、地図、図表、グラフが掲載され、各小單元で適切な関連付けがされた資料が掲載されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」、「クラスの学習問題」、「たいせつ」といったキーワードが掲載されている。 ・「ことば」で用語の解説がされているが、数としては少ない。 	
日文	主に写真、イラスト、地図、図表、グラフが掲載され、各小單元で適切な関連付けがされた資料が掲載されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のまど」、「? (毎時間の問題)」、「! (まとめ)」、次につながる学習問題、「学び方・調べ方コーナー」、「考えるヒント」、「やってみよう」といったキーワードが掲載されている。 ・「キーワード」、「むずかしい言葉」で用語の解説がされている。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点5】
言語活動の充実**

	⑪	⑫	
視点	観察・調査や資料活用を通して入手した情報を的確に記録し、それらを再構成するとともに、お互いの考えを深めていくための工夫	調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫	
方法	観察・調査や資料活用を通して入手した情報を的確に記録し、それらを再構成するとともに、お互いの考えを深めていくための学習活動例	新聞、地図、年表、レポート、ホームページなどでのまとめ方及び具体例	
東書	・調べたことをまとめ、考えを深める学習の例が記載されている。	・表現方法が豊富に例示されている。 ・具体例（6年生）「これまで学んだことを生かし、中学校社会科への期待について、意見文を書こう。」	◎
教出	・調べたことをまとめ、考えを深める学習の例が記載されている。	・表現方法が例示されている。 ・具体例（6年生）「よりよい社会をつくっていくために自分たちはどのように参加していくかを考えながら、これから実行したいことや、中学校で学んでいきたいことを、宣言文にまとめよう。」	○
光村	・調べたことをまとめ、考えを深める学習の例が記載されている。	・表現方法が豊富に例示されている。 ・具体例（6年生）それぞれが興味をもったことを調べ、みんなで話し合い、「地球の未来に向けての意見文」を書く。	◎
日文	・調べたことをまとめ、考えを深める学習の例が記載されている。	・表現方法が例示されている。 ・具体例（6年生）「これまでの学習をふりかえって、日本人の役割として、自分に何ができるか考え、ふりかえりシート『わたしが、できること、考えていきたいことは、これだ!』を書こう。」	

◎:特に優れている, ○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「地図」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①題材や活動の取扱い・説明の仕方の工夫	○地図の見方の記載例	
	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	○国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例	
	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	○環境、国際理解等の学習への活用	
主体的に学習に取り組む工夫	④興味・関心を高めるための工夫	○興味・関心を高めるための記載例 ○呉市や広島県に関する記載	
	⑤見通しを立てたり，振り返ったりする学習のための構成上の工夫	○作業的・体験的な学習課題の例	
内容の構成・配列・分量	⑥単元・題材や資料等の配列	○統計資料及び地図の扱い	
内容の表現・表記	⑦学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	○資料等の活用方法の記載	
言語活動の充実	⑧観察・調査や各種資料の活用の工夫	○地図を活用した調べ方の事例	
	⑨調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫	○地図を活用した表現の事例	

※観点ごとに，特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・地図の見方は、「地図帳の使い方①」「地図帳の使い方②」(4ページ)で凡例、索引、方位、縮尺、地形表現について説明されている。索引の使い方は4コママンガ風で説明されている。</p> <p>② ・国土の地理的環境が、1ページで示されており、日本と近隣諸国等5カ国1地域が掲載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の範囲(領土、領海)や日本の排他的経済水域(200海里水域)の説明があり、日本の東・西・南・北の端の島の説明と写真を掲載している。 ・歴史的事象が記載された地図については、明治元年時点の日本の(国の呼び名)と特徴的な行事等が紹介されている。 <p>③ ・世界のそれぞれの地域を代表する植物等が小さなイラストとして、世界各地の地図に示されており、自然環境に関わる知識・理解が深まるよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解等の学習への活用については、巻末に、世界全図と国旗(地域別197カ国と赤十字、国連、オリンピック)が掲載されている。 <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・掲載している日本や世界の代表的な山、島、湖の形や大きさが、写真や彩色豊かなイラストで立体的に表現されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100万分の1の地図で広島県、呉市が掲載されている。 <p>⑤ ・5人のキャラクター(博士と4人の子ども)による吹き出しで、学習の見通しやまとめとなる言葉が提示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑥ ・統計資料は、日本の都道府県の統計、世界の主な国の統計一覧が掲載されている。日本の産業の特色や世界の国々の特徴をつかみやすい構成になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図の縮尺は、400万分の1、100万分の1、50万分の1、5万分の1が使われている。なお、京都、東京の中心部では、5万分の1の地図が使われている。 <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑦ ・学習内容に関連ある写真やイラストが配置されているが、活用方法の記載はされていない。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑧ ・キャラクターが、調べる視点や調べ方など具体的作業の投げかけ、調べてわかったことのまとめなどを示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・索引の見方として活用の仕方を例示してあり、掲載されている地名の頭部分に、市、町、村、字、旧市町村、世界遺産、名所や寺院、各種施設が分かる記号を付け、検索しやすくする工夫がされている。 <p>⑨ ・自分が行ったことのある所や行ってみたい所を地図で探し、掲載されているページ等を記入していき、自分だけの索引をつくる学習が掲載されている。</p>

発行者	総合的な所見
帝国	<p>1 ① ・地図の見方は、「地図のなりたちとよくそくごと」「地図帳の使い方①」「地図帳の使い方②」(6ページ)において方位、凡例、地形表現、縮尺について説明されている。その際、航空写真が地図になるまでの過程を、写真と地図を使い段階的に説明しており、地図の見方の理解が深まるように工夫されている。</p> <p>② ・国土の地理環境が、2ページで示されており、国旗とともに、日本と近隣諸国14カ国が掲載されている。 ・排他的経済水域、接続水域、領海、領空等を模式図で示し、国の範囲を説明するとともに、日本の東・西・南・北の端の島の説明と写真を掲載している。 ・歴史的事象が記載された地図については、「江戸時代の交通路」と「むかしの境界(明治元年時点)」「歴史の舞台になった場所」の3つの日本地図、古都鎌倉の様子を示した模式図、伊能忠敬の日本地図の写真など、多くの情報が掲載されている。</p> <p>③ ・世界のそれぞれの地域で食べられている主な料理が小さなイラストとして、世界各地の地図に示したり、世界各地の人々の生活の様子等を撮影した写真を掲載したりして、生活環境に関わる知識・理解が深まるように工夫されている。 ・国際理解等の学習への活用については、巻末に、世界全図と民族衣装とあいさつのことば、世界の主な祭りの写真と説明、各地方図には国旗(197カ国とEU)が掲載されており、国際理解が深まるようになっている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ④ ・世界各地図に「なんでも世界一」のマークが設けられ、それぞれの地域の「世界一」が紹介されていたり、「物語や音楽の舞台になったところ」「歴史上の人物」の活躍地を表したマークを記したりして、地図に対する興味・関心を高めるための工夫が多く見られる。 ・100万分の1と50万分の1の地図で広島県、呉市が掲載されている。</p> <p>⑤ ・「注目しよう」「トライ」のコーナーで、2人の子どもキャラクターによる吹き出しで、学習の見通しやまとめとなる言葉が提示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑥ ・統計資料は、日本の都道府県の統計、世界の主な国の統計一覧が掲載されている。日本の産業の特色や世界の国々の特徴をつかみやすい構成になっている。 ・地図の縮尺は、400万分の1、100万分の1、50万分の1、10万分の1が使われている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑦ ・学習内容に関連ある写真やイラストが配置されているが、活用方法の記載はされていない。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑧ ・キャラクターが、調べる視点や調べ方など具体的作業の投げかけ、調べてわかったことのまとめなどを示している。 ・索引の見方として活用の仕方を例示してあり、掲載されている地名の頭部分に、市、町、村、字、旧市町村、歴史地名、世界文化遺産、世界自然遺産が分かる記号を付けるといった工夫がされている。</p> <p>⑨ ・巻末の世界地図を使い、日本のおおよその位置を、緯度と経度を使って説明する学習や自分の住んでいる都道府県等を調べ、その都道府県の「紹介文」を書く活動や、自分の地域の「防災マップ」をつくる学習が掲載されており、調べたことや考えたことを表現することができるようになっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③	
視点	題材や活動の取扱い・説明の仕方の工夫	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	
方法	地図の見方の記載例	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例	環境、国際理解等の学習への活用	
東書	<p>・地図の見方は、「地図帳の使い方①」「地図帳の使い方②」（4ページ）で凡例、索引、方位、縮尺、地形表現について説明されている。索引の使い方は4コママンガ風で説明されている。</p>	<p>・国土の地理的環境が、1ページで示されており、日本と近隣諸国等5カ国1地域が掲載されている。</p> <p>・国の範囲（領土、領海）や日本の排他的経済水域（200海里水域）の説明があり、日本の東・西・南・北の端の島の説明と写真を掲載している。</p> <p>・歴史的事象が記載された地図については、明治元年時点の日本の（国の呼び名）と特徴的な行事等が紹介されている。</p>	<p>・世界のそれぞれの地域を代表する植物等が小さなイラストとして、世界各地の地図に示されており、自然環境に関わる知識・理解が深まるよう工夫されている。</p> <p>・国際理解等の学習への活用については、巻末に、世界全図と国旗（地域別197カ国と赤十字、国連、オリンピック）が掲載されている。</p>	○
帝国	<p>・地図の見方は、「地図のなりたちとよくそくごと」「地図帳の使い方①」「地図帳の使い方②」（6ページ）において方位、凡例、地形表現、縮尺について説明されている。その際、航空写真が地図になるまでの過程を、写真と地図を使い段階的に説明しており、地図の見方の理解が深まるように工夫されている。</p>	<p>・国土の地理環境が、2ページで示されており、国旗とともに、日本と近隣諸国14カ国が掲載されている。</p> <p>・排他的経済水域、接続水域、領海、領空等を模式図で示し、国の範囲を説明するとともに、日本の東・西・南・北の端の島の説明と写真を掲載している。</p> <p>・歴史的事象が記載された地図については、「江戸時代の交通路」と「むかしの境界（明治元年時点）」「歴史の舞台になった場所」の3つの日本地図、古都鎌倉の様子を示した模式図、伊能忠敬の日本地図の写真など、多くの情報が掲載されている。</p>	<p>・世界のそれぞれの地域で食べられている主な料理が小さなイラストとして、世界各地の地図に示したり、世界各地の人々の生活の様子等を撮影した写真を掲載したりして、生活環境に関わる知識・理解が深まるように工夫されている。</p> <p>・国際理解等の学習への活用については、巻末に、世界全図と民族衣装とあいさつのことば、世界の主な祭りの写真と説明、各地方図には国旗（197カ国とEU）が掲載されており、国際理解が深まるようになっている。</p>	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫**

	④	⑤	
視点	興味・関心を高めるための工夫	見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫	
方法	興味・関心を高めるための記載例 ○呉市や広島県に関する記載	作業的・体験的な学習課題の例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載している日本や世界の代表的な山、島、湖の形や大きさが、写真や彩色豊かなイラストで立体的に表現されている。 ・100万分の1の地図で広島県、呉市が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5人のキャラクター（博士と4人の子ども）による吹き出しで、学習の見通しやまとめとなる言葉が提示されている。 	○
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地図に「なんでも世界一」のマークが設けられ、それぞれの地域の「世界一」が紹介されていたり、「物語や音楽の舞台になったところ」「歴史上の人物」の活躍地を表したマークを記したりして、地図に対する興味・関心を高めるための工夫が多く見られる。 ・100万分の1と50万分の1の地図で広島県、呉市が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「注目しよう」「トライ」のコーナーで、2人の子どもキャラクターによる吹き出しで、学習の見通しやまとめとなる言葉が提示されている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点3】 内容の構成・配列・分量		【観点4】 内容の表現・表記	
⑥		⑦	
視点	単元・題材や資料等の配列	学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	
方法	統計資料及び地図の扱い	資料等の活用方法の記載	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料は、日本の都道府県の統計、世界の主な国の統計一覧が掲載されている。日本の産業の特色や世界の国々の特徴をつかみやすい構成になっている。 ・地図の縮尺は、400万分の1、100万分の1、50万分の1、5万分の1が使われている。なお、京都、東京の中心部では、5万分1の地図が使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に関連ある写真やイラストが配置されているが、活用方法の記載はされていない。 	○
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料は、日本の都道府県の統計、世界の主な国の統計一覧が掲載されている。日本の産業の特色や世界の国々の特徴をつかみやすい構成になっている。 ・地図の縮尺は、400万分の1、100万分の1、50万分の1、10万分の1が使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に関連ある写真やイラストが配置されているが、活用方法の記載はされていない。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点5】
言語活動の充実**

	⑧	⑨	
視点	観察・調査や各種資料の活用の工夫	調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫	
方法	地図を活用した調べ方の事例	地図を活用した表現の事例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターが、調べる視点や調べ方など具体的作業の投げかけ、調べてわかったことのまとめなどを示している。 ・索引の見方として活用の仕方を例示しており、掲載されている地名の頭部分に、市、町、村、字、旧市町村、世界遺産、名所や寺院、各種施設が分かる記号を付け、検索しやすくする工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が行ったことのある所や行ってみたい所を地図で探し、掲載されているページ等を記入していき、自分だけの索引をつくる学習が掲載されている。 	
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターが、調べる視点や調べ方など具体的作業の投げかけ、調べてわかったことのまとめなどを示している。 ・索引の見方として活用の仕方を例示しており、掲載されている地名の頭部分に、市、町、村、字、旧市町村、歴史地名、世界文化遺産、世界自然遺産が分かる記号を付けるといった工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の世界地図を使い、日本のおおよその位置を、緯度と経度を使って説明する学習や自分の住んでいる都道府県等を調べ、その都道府県の「紹介文」を書く活動や、自分の地域の「防災マップ」をつくる学習が掲載されており、調べたことや考えたことを表現することができるようになってい 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「算数」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①単元・題材の目標の示し方	○単元の流れ，問題提示と学習内容	
	②基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫	○学年間でスパイラルに取り扱われている内容及び例題，問題数	
	③筋道を立てて考える力を育成するための工夫	○導入と学習内容，複数の考え方の例示の仕方	
主体的に学習に取り組む工夫	④興味・関心を高めるための工夫	○日常生活とのかかわりで取り扱われている題材数と具体例	
	⑤問題解決的な学習を実施するための工夫	○単元の学習展開	
	⑥作業的・体験的な学習を実施するための工夫	○作業的・体験的活動の例示数と具体例	
内容の構成・配列・分量	⑦単元・題材や資料等の配列	○ページ数と単元数，単元内の構成，単元内の配列と分量	
	⑧発展的な学習，中学校との関連に関する内容の記述	○発展的な問題の数，中学校との関連に関する内容の記述	
	⑨自主的・自発的な学習を行うための構成，記述の工夫	○考える手順や小発問の数，ヒントやポイントを示した吹き出し等の数	
内容の表現・表記	⑩イラスト・写真等の活用	○イラストや写真などの視覚資料の扱い	
言語活動の充実	⑪算数的な表現を用いて自分の考えを説明する活動の工夫	○説明させたり，話し合わせたりする小発問の数と記載例	
	⑫自分の考えをまとめ記述する活動の工夫	○ノート指導やレポート作成の扱い及びその記載例，ノート指導の記述ページ数	

※観点ごとに，特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・5年生「単位量あたりの大きさ」では、ウサギ小屋の面積とウサギの数が違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。前単元で学習している平均の考えを使って課題を解決し、単位量あたりの考えへとつなげていく単元の流れとなっている。 ・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標が示されている。</p> <p>② ・2年生「簡単な分数」では、ピザやサンドウィッチを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、もとのテープ図と切った後のテープ図を示し考えさせる活動が設定されている。問題数は13問あり、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p> <p>③ ・5年生「図形の角」の導入において、三角形の角の大きさの秘密をさぐるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、3つの考え方が例示されている。五角形の内角の和の学習では、複数の考え方の例示はない。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は15（導入、グラフ、練習問題等）。 ・比例の利用の問題では、画用紙の枚数の求め方を複数の方法で考えさせ、表や式を使って説明させるようにしている。</p> <p>⑤ ・5年生「面積」では、導入で、様々な図形の中から、面積の求め方を学習した図形と学習していない図形に分ける活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。</p> <p>⑥ ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は27。量の大きさについての感覚を豊かにする活動が多く設定されている。 ・3年生「重さの単位と測定」では、一円玉を使って重さを調べるなど4つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・各学年のページ数、単元数ともに適切である。 ・4年生「四角形を調べよう」では、全24ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。</p> <p>⑧ ・児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が200以上設定されている。 ・中学校の数学との内容のつながりを知らせたり、中学校での学習に関心が高まるように、目次や単元内、巻末にさまざまな手立てを設けたりしている。</p> <p>⑨ ・キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 ・2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑩ ・三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、視覚的に分かりやすいよう5枚の連続写真を用いている。平行な直線のかき方を理解する上で効果的である。 ・キャラクター（三角錐、立方体、球をイメージしたもの）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑪ ・算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、自分の考えを説明させるための発問や吹き出しが200以上設定されている。</p> <p>⑫ ・ノート指導は、1年生の下巻、2年生から5年生の上・下巻及び6年生の2単元学習後に、「学習した日」「問題」「自分の考え」「まとめ」「学習感想」などが示されている。記述合計20ページ。 ・レポート作成にかかわる記載はない。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
大日本	<p>1 ① ・5年生「単位量あたりの大きさ」では、公園の面積とそこで遊ぶ人の数が違う4つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。単位量あたりの考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標が示されている。</p> <p>② ・2年生「簡単な分数」では、ピザやサンドウィッチを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、ミシン目の入った長方形と円の2つのものに色塗りをさせる活動が設定されている。問題数は7問とやや少ないが、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p> <p>③ ・5年生「図形の角」の導入において、三角形の角の大きさの秘密をさぐるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、3つの考え方が例示されている。五角形の内角の和を説明させる学習でも、3つの考え方が例示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は15（導入、グラフ、練習問題等）。</p> <p>・比例の利用の問題では、箸の本数と重さについてと釘の本数と重さについて比例の考えを使って説明させたり、答えを求めさせたりしている。</p> <p>⑤ ・5年生「面積」では、導入で、同じ枠に囲まれた長方形と平行四辺形の面積が同じかどうかを考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。</p> <p>・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。</p> <p>⑥ ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は24。</p> <p>・3年生「重さの単位と測定」では、100gと思うものを探してはかりで確かめるなど5つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・各学年のページ数、単元数ともに適切である。</p> <p>・4年生「垂直、平行と四角形」では、全26ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。</p> <p>⑧ ・児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が100以上設定されている。</p> <p>・中学校の素地となる内容や興味・関心を高める内容を提示している。</p> <p>⑨ ・キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。</p> <p>・2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。</p>
	<p>4 ⑩ ・三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、視覚的に分かりやすいよう5枚の連続写真を用いている。平行な直線のかき方を理解する上で効果的である。</p> <p>・キャラクター（うさぎ）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑪ ・算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、複数の考え方の違いを説明させるための発問や自分の考えを説明させるための発問が300以上設定されており、言語活動を充実させる上で効果的である。</p> <p>⑫ ・ノート指導は、2年生以上の教科書の巻頭において、「問題をつかもう」「自分で考えよう」「発表しよう」「話し合おう」「まとめをしよう」「学習をたしかめる問題」「ふりかえろう」などが示されている。記述合計10ページ。</p> <p>・レポート作成にかかわる記載はない。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
学図	<p>1 ① ・5年生「単位量あたりの大きさ」では、マットの面積と子どもの数が違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。「平均」と「単位量あたりの大きさ」が1つの単元の中に位置付けられており、「ならず」考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。 ・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標が示されている。</p> <p>② ・2年生「簡単な分数」では、ピザやサンドウィッチを等しく分ける場면을例題として取り上げている。1/8の分数は、折り紙を縦に3回折る場面と折った折り紙を基に考えさせる場面の2つの学習活動が、知識・技能を定着させるために設定されている。問題数は12問あり、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p> <p>③ ・5年生「図形の角」の導入において、三角形、四角形の角の大きさの和を調べるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、2つの考え方が例示されている。五角形の内角の和を説明させる学習では、3つの考え方が例示されている。その後、五角形のしきつめの学習を設定することで考えを深めさせるようにしている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ④ ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は22（導入、グラフ、練習問題等）。児童の興味・関心が高まるよう日常生活とかかわりのある題材が多く取り扱われている。 ・比例の利用の問題では、コーラと砂糖の量、おもりとゴムの伸びなどの答えを求めさせている。</p> <p>⑤ ・5年生「面積」では、導入で、枠に囲まれた四角形の面積について考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。</p> <p>⑥ ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は22。 ・3年生「重さの単位と測定」では、てんびんを使って重さを比べるなど4つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・各学年のページ数、単元数ともに適切である。 ・4年生「いろいろな四角形」では、全22ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。</p> <p>⑧ ・児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が100以上設定されている。 ・6年生別冊「中学校へのかけ橋」では、小学校で学んだ考え方をもとに総まとめをし、中学校でも活用できるようにしている。</p> <p>⑨ ・キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 ・2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。</p>
	<p>4 ⑩ ・三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、3枚の連続写真を用いて説明している。 ・キャラクター（博士）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・算数的な表現(言葉、数、式等)を用いて、自分の考えを説明させるための発問が100以上設定されている。</p> <p>⑫ ・ノート指導は、2年生以上の各学年の早い時期に、「日付」「問題」「考えや見つけたこと」「わかったこと」「色鉛筆の使用」「まとめの要点」などが示されている。記述合計は12ページ。 ・6年生に「レポート名人になろう」と題し、テーマ、準備したもの、方法、予想、実験の結果、考察などの項目で書くことを、見本を付け記載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
教出	<p>1 ① ・5年生「単位量あたりの大きさ」では、エレベーターの床面積と人の数の違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。単位量あたりの考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標を設定するページがある。</p> <p>② ・2年生「簡単な分数」では、パンを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、ミシン目が入った折り紙に色塗りをさせる活動が設定されている。問題数は、12問あり、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p> <p>③ ・5年生「図形の角」の導入において、三角形の3つの角の大きさのきまりを見付けるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、3つの考え方が例示されている。五角形の内角の和を説明させる学習では、説明の例示はなく、2つの考えの方の図が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は11（導入、グラフ、練習問題等）。</p> <p>・比例の利用の問題では、折り紙の枚数と重さについて比例を使って説明させるようにしている。</p> <p>⑤ ・5年生「面積」では、導入で、同じ枠に囲まれた長方形と平行四辺形の面積が同じかどうかを考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。</p> <p>・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。</p> <p>⑥ ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は25。</p> <p>・3年生「重さの単位と測定」では、はかりを使ってものの重さをはかるなど5つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・各学年のページ数、単元数ともに適切である。</p> <p>・4年生「垂直、平行と四角形」では、全24ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。</p> <p>⑧ ・児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が200以上設定されている。</p> <p>・中学校との接続を意識し、コラムで発展的・統合的な見方を育成している。</p> <p>⑨ ・キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。</p> <p>・2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑩ ・三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、2枚の写真を用いて説明している。</p> <p>・キャラクター（どんぐり）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・算数的な表現(言葉、数、式等)を用いて、自分の考えを説明させるための発問が100以上設定されている。</p> <p>⑫ ・ノート指導は、2年生以上の各学年に、「答えの予想」「誤答の修正の仕方」「友だちの考え」「図や式の記入」「要点を色鉛筆を使って書くこと」などが示されている。記述合計10ページ。</p> <p>・レポート作成にかかわる記載はない。</p>

発行者	総合的な所見
啓林館	<p>1 ① ・5年生「単位量あたりの大きさ」では、たたみの数と子どもの数が違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。単位量あたりの考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。 ・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに「めあて」と題して目標が示されている。</p> <p>② ・2年生「簡単な分数」では、ピザやケーキ、お好み焼きを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、ミシン目の入ったテープ図に色塗りをさせる活動が設定されている。問題数は9問とやや少ないが、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p> <p>③ ・5年生「図形の角」の導入において、三角形の3つの角の大きさを調べるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、2つの考え方が例示されている。五角形の内角の和を説明させる学習では、文章で考え方が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は17（導入、グラフ、練習問題等）。 ・比例の利用の問題では、ベニヤ板の枚数や釘の本数、画用紙の枚数の求め方を比例の考えを使って説明させるなど、日常生活とかかわりのある題材を3つ取り上げ、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。</p> <p>⑤ ・5年生「面積」では、導入で、様々な図形の中から学習していない図形の面積の求め方を考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、直角三角形の面積→三角形の面積→平行四辺形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。</p> <p>⑥ ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は29。量の大きさについての感覚を豊かにする活動が多く設定されている。 ・3年生「重さの単位と測定」では、はかりを使ってものの重さをはかるなど5つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・各学年のページ数、単元数ともに適切である。 ・4年生「垂直・平行と四角形」では、全18ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。</p> <p>⑧ ・児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が300以上設定されており、児童の実態に合わせて活用することができる。 ・中学校での学習内容を紹介することで、中学校への円滑な接続を図っている。</p> <p>⑨ ・キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 ・2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑩ ・三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、視覚的に分かりやすいよう4枚の連続写真を用いている。平行な直線のかき方を理解する上で効果的である。 ・キャラクター（えんぴつ）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑪ ・算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、根拠や方法を説明させるための発問が100以上設定されている。</p> <p>⑫ ・ノート指導は、2年生以上の各学年に、「ことば・絵・図の活用」「友だちの考え」「気づき」「わけを記入すること」などが示されている。記述合計10ページ。 ・3年生以上の各学年に、「学びをいかそう算数実験室」と題し、実験レポートの作成を取り入れている。 ・6年生に、「夏休みの算数の自由研究」「算数の自由研究のテーマ」と題し、自由研究のやり方やテーマ等が複数記載されており、身の回りの事象や今までの学習内容からテーマを設定し、研究したことをまとめ、発表する流れとされているなど、言語活動の充実を意識した記載が多い。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
日文	<p>1 ① ・5年生「単位量あたりの大きさ」では、ひよこ小屋の面積とひよこの数の違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。単位量あたりと公倍数の考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標が示されている。</p> <p>② ・2年生「簡単な分数」では、折り紙を折る場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、テープ図を基に考えさせる活動が設定されている。問題数は6問と少ないが、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p> <p>③ ・5年生「図形の角」の導入において、三角形の敷き詰め活動から3つの角の大きさの和のきまりを見付けるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、3つの考え方が例示されている。五角形の内角の和の学習では、複数の考え方の例示はない。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は10（導入、グラフ、練習問題等）。</p> <p>・比例の利用の問題では、釘の本数と重さや厚紙の面積と重さの関係について比例の考えを使って答えを求めさせている。</p> <p>⑤ ・5年生「面積」では、導入で、まわりの長さが等しい様々な図形の面積の求め方を考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。</p> <p>・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。</p> <p>⑥ ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は25。</p> <p>・3年生「重さの単位と測定」では、一円玉を使って重さを調べるなど4つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・各学年のページ数、単元数ともに適切である。</p> <p>・4年生「四角形」では、全23ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。</p> <p>⑧ ・児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が300以上設定されており、児童の実態に合わせて活用することができる。</p> <p>・中学校での学習内容を紹介することで、中学校への円滑な接続を図っている。</p> <p>⑨ ・キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。</p> <p>・2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑩ ・三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、視覚的に分かりやすいよう5枚の連続写真を用いている。平行な直線のかき方を理解する上で効果的である。</p> <p>・キャラクター（りす）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑪ ・算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、自分の考えを説明させるための発問が400以上設定されており、言語活動を充実させる上で効果的である。</p> <p>⑫ ・ノート指導は、2年生以上の教科書の巻頭において、「めあて」「見通し」「考え」「学び合い」「まとめ」「練習」などが示されている。記述合計10ページ。</p> <p>・5年生の下巻に、「いち・に・算活」と題し、算数新聞の作成の仕方として、「テーマを決める、計画を立てる、調べる、整理する、まとめる、発表する」の順で紹介されている。また、発表の仕方や、質問の仕方も見本を示し、記載されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③	
視点	単元・題材の目標の示し方	基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫	筋道を立てて考える力を育成するための工夫	
方法	単元の流れ、問題提示と学習内容	学年間でスパイラルに取り扱われている内容及び例題、問題数	導入と学習内容、複数の考え方の例示の仕方	
東書	<p>・5年生「単位量あたりの大きさ」では、ウサギ小屋の面積とウサギの数が違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。前単元で学習している平均の考えを使って課題を解決し、単位量あたりの考えへとつなげていく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標が示されている。</p>	<p>・2年生「簡単な分数」では、ピザやサンドウィッチを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、もとのテープ図と切った後のテープ図を示し考えさせる活動が設定されている。問題数は13問あり、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p>	<p>・5年生「図形の角」の導入において、三角形の角の大きさの秘密をさぐるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、3つの考え方が例示されている。五角形の内角の和の学習では、複数の考え方の例示はない。</p>	○
大日本	<p>・5年生「単位量あたりの大きさ」では、公園の面積とそこで遊ぶ人の数が違う4つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。単位量あたりの考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標が示されている。</p>	<p>・2年生「簡単な分数」では、ピザやサンドウィッチを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、ミシン目が入った長方形と円の2つものに色塗りをさせる活動が設定されている。問題数は7問とやや少ないが、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p>	<p>・5年生「図形の角」の導入において、三角形の角の大きさの秘密をさぐるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、3つの考え方が例示されている。五角形の内角の和を説明させる学習でも、3つの考え方が例示されている。</p>	○
学図	<p>・5年生「単位量あたりの大きさ」では、マットの面積と子どもの数が違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。「平均」と「単位量あたりの大きさ」が1つの単元の中に位置付けられており、「ならず」考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標が示されている。</p>	<p>・2年生「簡単な分数」では、ピザやサンドウィッチを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、折り紙を縦に3回折る場面と折った折り紙を基に考えさせる場面の2つの学習活動が、知識・技能を定着させるために設定されている。問題数は12問あり、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p>	<p>・5年生「図形の角」の導入において、三角形、四角形の角の大きさの和を調べるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、2つの考え方が例示されている。五角形の内角の和を説明させる学習では、3つの考え方が例示されている。その後、五角形のしきつめの学習を設定することで考えを深めさせるようにしている。</p>	◎
教出	<p>・5年生「単位量あたりの大きさ」では、エレベーターの床面積と人の数の違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。単位量あたりの考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標を設定するページがある。</p>	<p>・2年生「簡単な分数」では、パンを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、ミシン目が入った折り紙に色塗りをさせる活動が設定されている。問題数は、12問あり、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p>	<p>・5年生「図形の角」の導入において、三角形の3つの角の大きさのきまりを見付けるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、3つの考え方が例示されている。五角形の内角の和を説明させる学習では、説明の例示はなく、2つの考えの方の図が示されている。</p>	○
啓林館	<p>・5年生「単位量あたりの大きさ」では、たたみの数と子どもの数が違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。単位量あたりの考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに「めあて」と題して目標が示されている。</p>	<p>・2年生「簡単な分数」では、ピザやケーキ、お好み焼きを等しく分ける場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、ミシン目が入ったテープ図に色塗りをさせる活動が設定されている。問題数は9問とやや少ないが、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p>	<p>・5年生「図形の角」の導入において、三角形の3つの角の大きさのきまりを調べるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、2つの考え方が例示されている。五角形の内角の和を説明させる学習では、文章で考え方が示されている。</p>	○
日文	<p>・5年生「単位量あたりの大きさ」では、ひよこ小屋の面積とひよこの数の違う3つの場面から、こみ具合を比べる問題が提示されている。単位量あたりと公倍数の考えを使って課題を解決していく単元の流れとなっている。</p> <p>・新たに学習する内容の見通しを児童にもたせるよう、単元のはじめに目標が示されている。</p>	<p>・2年生「簡単な分数」では、折り紙を折る場面を例題として取り上げている。1/8の分数は、テープ図を基に考えさせる活動が設定されている。問題数は6問と少ないが、「簡単な分数」を定着させるために十分な量である。</p>	<p>・5年生「図形の角」の導入において、三角形の敷き詰め活動から3つの角の大きさの和のきまりを見付けるという学習が設定されている。四角形の内角の和の学習では、3つの考え方が例示されている。五角形の内角の和の学習では、複数の考え方の例示はない。</p>	○

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫

	④	⑤	⑥	
視点	興味・関心を高めるための工夫	問題解決的な学習を実施するための工夫	作業的・体験的な学習を実施するための工夫	
方法	日常生活とのかかわりで取り扱われている題材数と具体例	単元の学習展開	作業的・体験的活動の例示数と具体例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は15（導入、グラフ、練習問題等）。 ・比例の利用の問題では、画用紙の枚数の求め方を複数の方法で考えさせ、表や式を使って説明させるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生「面積」では、導入で、様々な図形の中から、面積の求め方を学習した図形と学習していない図形に分ける活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は27。量の大きさについての感覚を豊かにする活動が多く設定されている。 ・3年生「重さの単位と測定」では、一円玉を使って重さを調べるなど4つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。 	◎
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は15（導入、グラフ、練習問題等）。 ・比例の利用の問題では、箸の本数と重さについてと釘の本数と重さについて比例の考えを使って説明させたり、答えを求めさせたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生「面積」では、導入で、同じ枠に囲まれた長方形と平行四辺形の面積が同じかどうかを考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は24。 ・3年生「重さの単位と測定」では、100gと思うものを探してはかりで確かめるなど5つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。 	○
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は22（導入、グラフ、練習問題等）。児童の興味・関心が高まるよう日常生活とかかわりのある題材が多く取り扱われている。 ・比例の利用の問題では、コーラと砂糖の量、おもりとゴムの伸びなどの答えを求めさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生「面積」では、導入で、枠に囲まれた四角形の面積について考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は22。 ・3年生「重さの単位と測定」では、てんびんを使って重さを比べるなど4つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。 	◎
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は11（導入、グラフ、練習問題等）。 ・比例の利用の問題では、折り紙の枚数と重さについて比例を使って説明させるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生「面積」では、導入で、同じ枠に囲まれた長方形と平行四辺形の面積が同じかどうかを考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は25。 ・3年生「重さの単位と測定」では、はかりを使ってものの重さをはかるなど5つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。 	○
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は17（導入、グラフ、練習問題等）。 ・比例の利用の問題では、ベニヤ板の枚数や釘の本数、画用紙の枚数の求め方を比例の考えを使って説明させるなど、日常生活とかかわりのある題材を3つ取り上げ、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生「面積」では、導入で、様々な図形の中から学習していない図形の面積の求め方を考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、直角三角形の面積→三角形の面積→平行四辺形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は29。量の大きさについての感覚を豊かにする活動が多く設定されている。 ・3年生「重さの単位と測定」では、はかりを使ってものの重さをはかるなど5つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。 	◎
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生「比例・反比例」の合計題材数は10（導入、グラフ、練習問題等）。 ・比例の利用の問題では、釘の本数と重さや厚紙の面積と重さの関係について比例の考えを使って答えを求めさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生「面積」では、導入で、まわりの長さが等しい様々な図形の面積の求め方を考える活動を通して児童に課題を設定させるようにしている。その後、平行四辺形の面積→三角形の面積→台形の面積→ひし形の面積の順に課題を解決していく学習展開になっている。 ・導入、課題設定、課題解決という流れで問題解決的な学習が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生「量と測定」領域の作業的・体験的活動の例示数は25。 ・3年生「重さの単位と測定」では、一円玉を使って重さを調べるなど4つの活動が設定されている。例示数、具体例ともに適切である。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点3】
内容の構成・配列・分量**

	⑦	⑧	⑨	
視点	単元・題材や資料等の配列	発展的な学習、中学校との関連に関する内容の記述	自主的・自発的な学習を行うための構成、記述の工夫	
方法	ページ数と単元数、単元内の構成、単元内の配列と分量	発展的な問題の数、中学校との関連に関する内容の記述	考える手順や小発問の数、ヒントやポイントを示した吹き出し等の数	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 各学年のページ数、単元数ともに適切である。 4年生「四角形を調べよう」では、全24ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が200以上設定されている。 中学校の数学との内容のつながりを知らせたり、中学校での学習に関心が高まるように、目次や単元内、巻末にさまざまな手立てを設けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。 	○
大日本	<ul style="list-style-type: none"> 各学年のページ数、単元数ともに適切である。 4年生「垂直、平行と四角形」では、全26ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が100以上設定されている。 中学校の素地となる内容や興味・関心を高める内容を提示している。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。 	
学図	<ul style="list-style-type: none"> 各学年のページ数、単元数ともに適切である。 4年生「いろいろな四角形」では、全22ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が100以上設定されている。 6年生別冊「中学校へのかけ橋」では、小学校で学んだ考え方をもとに総まとめをし、中学校でも活用できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。 	
教出	<ul style="list-style-type: none"> 各学年のページ数、単元数ともに適切である。 4年生「垂直、平行と四角形」では、全24ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が200以上設定されている。 中学校との接続を意識し、コラムで発展的・統合的な見方を育成している。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。 	○
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> 各学年のページ数、単元数ともに適切である。 4年生「垂直・平行と四角形」では、全18ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が300以上設定されており、児童の実態に合わせて活用することができる。 中学校での学習内容を紹介することで、中学校への円滑な接続を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。 	◎
日文	<ul style="list-style-type: none"> 各学年のページ数、単元数ともに適切である。 4年生「四角形」では、全23ページで構成しており、単元内の構成、配列、分量ともに適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思考力や表現力の育成をねらい、発展的な問題が300以上設定されており、児童の実態に合わせて活用することができる。 中学校での学習内容を紹介することで、中学校への円滑な接続を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター等によって、学習のヒントやポイントが示されている。 2年生「三角形と四角形」、3年生「長さ」では、児童自身が自主的・自発的な学習を進めることができるよう、活動ごとに小発問や吹き出し等の工夫が多くある。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点4】 内容の表現・表記		【観点5】 言語活動の充実	
	⑩	⑪	⑫
視点	イラスト・写真等の活用	算数的な表現を用いて自分の考えを説明する活動の工夫	自分の考えをまとめ記述する活動の工夫
方法	イラストや写真などの視覚資料の扱い	説明させたり、話し合わせたりする小発問の数と記載例	ノート指導やレポート作成の扱い及びその記載例、ノート指導の記述ページ数
東書	<ul style="list-style-type: none"> 三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、視覚的に分かりやすいよう5枚の連続写真を用いている。平行な直線のかき方を理解する上で効果的である。 キャラクター（三角錐、立方体、球をイメージしたもの）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、複数の考え方の違いを説明させるための発問や自分の考えを説明させるための発問が300以上設定されており、言語活動を充実させる上で効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導は、1年生の下巻、2年生から5年生の上・下巻及び6年生の2単元学習後に、「学習した日」「問題」「自分の考え」「まとめ」「学習感想」などが示されている。記述合計20ページ。 レポート作成にかかわる記載はない。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> 三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、視覚的に分かりやすいよう5枚の連続写真を用いている。平行な直線のかき方を理解する上で効果的である。 キャラクター（うさぎ）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、複数の考え方の違いを説明させるための発問や自分の考えを説明させるための発問が300以上設定されており、言語活動を充実させる上で効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導は、2年生以上の教科書の巻頭において、「問題をつかもう」「自分で考えよう」「発表しよう」「話し合おう」「まとめをしよう」「学習をたしかめる問題」「ふりかえろう」などが示されている。記述合計10ページ。 レポート作成にかかわる記載はない。
学図	<ul style="list-style-type: none"> 三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、3枚の連続写真を用いて説明している。 キャラクター（博士）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、自分の考えを説明させるための発問が100以上設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導は、2年生以上の各学年の早い時期に、「日付」「問題」「考えや見つけたこと」「わかったこと」「色鉛筆の使用」「まとめの要点」などが示されている。記述合計は12ページ。 6年生に「レポート名人になろう」と題し、テーマ、準備したもの、方法、予想、実験の結果、考察などの項目で書くことを、見本を付け記載されている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> 三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、2枚の写真を用いて説明している。 キャラクター（どんぐり）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、自分の考えを説明させるための発問が100以上設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導は、2年生以上の各学年に、「答えの予想」「誤答の修正の仕方」「友だちの考え」「図や式の記入」「要点を色鉛筆を使って書くこと」などが示されている。記述合計10ページ。 レポート作成にかかわる記載はない。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> 三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、視覚的に分かりやすいよう4枚の連続写真を用いている。平行な直線のかき方を理解する上で効果的である。 キャラクター（えんぴつ）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、根拠や方法を説明させるための発問が100以上設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導は、2年生以上の各学年に、「ことば・絵・図の活用」「友だちの考え」「気づき」「わけを記入すること」などが示されている。記述合計10ページ。 3年生以上の各学年に、「学びをいかそう算数実験室」と題し、実験レポートの作成を取り入れている。 6年生に、「夏休みの算数の自由研究」「算数の自由研究のテーマ」と題し、自由研究のやり方やテーマ等が複数記載されており、身の回りの事象や今までの学習内容からテーマを設定し、研究したことをまとめ、発表する流れとされているなど、言語活動の充実を意識した記載が多い。
日文	<ul style="list-style-type: none"> 三角定規を使った平行線のかき方の指導では、2つの三角定規を用いた平行な直線のかき方を、視覚的に分かりやすいよう5枚の連続写真を用いている。平行な直線のかき方を理解する上で効果的である。 キャラクター（りす）や複数の児童の吹き出しを手がかりに問題解決させるようにするなど視覚資料が適切に扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な表現（言葉、数、式等）を用いて、自分の考えを説明させるための発問が400以上設定されており、言語活動を充実させる上で効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導は、2年生以上の教科書の巻頭において、「めあて」「見通し」「考え」「学び合い」「まとめ」「練習」などが示されている。記述合計10ページ。 5年生の下巻に、「いち・に・算活」と題し、算数新聞の作成の仕方として、「テーマを決める、計画を立てる、調べる、整理する、まとめる、発表する」の順で紹介されている。また、発表の仕方や、質問の仕方も見本を示し、記載されている。

◎:特に優れている, ○:優れている